子どもの生活と学びに関する親子調査2020

ダイジェスト版

CONTENTS

「子どもの生活と学び」研究プロジェクトについて 2
調査概要 3

01 学校生活の変化
① 学校生活への意識 5
② 学校の授業 6
③ 休校中の学校の対応 7
④ 休校中の宿題の内容 8
⑤ 休校中の宿題の種類 9
⑥ 学校再開後の状況 10

02 家庭の変化
① 今後の収入変化 11
② 悩みや気がかり 12
③ 社会に対する意識 13
④ 保護者の教育意識Ⅰ 14
⑤ 保護者の教育意識Ⅱ 15

03 子どもの生活・学びの変化
1）生活
① メディア利用時間 16
② 休校前後の中学生の生活時間 17
③ 休校時の生活習慣・学習習慣 18
④ 学習意欲の低下 19
⑤ 将来の進学・就職希望 20

2）新型コロナ感染拡大の影響
① 不安・心配 21
② 新型コロナ後に増えたこと 22
③ あなたに与えた影響 23

ISS 東京大学社会科学研究所
ベネッセ教育総合研究所

「子どもの生活と学び」研究プロジェクトについて

東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所は、2014年1月に、「子どもの生活と学び」の実態を明らかにする共同研究プロジェクトを立ち上げました。
本ダイジェスト版では、この研究プロジェクトの一環として行った調査結果を載せています。

■研究プロジェクトの特徴

1．小学1年生から高校3年生の「現在」と「時代変化」をとらえることができる

研究プロジェクトでは、小学1年生から高校3年生の子どもとその保護者に対して、毎年継続して調査を実施します。これにより、12学年にわたる子どもの生活や学び、保護者の子育ての実態などの「現在」の様子（1時点の学年による違い）を明らかにできます（図中①）。また、経年比較により、子どもと保護者の「時代変化」をみることができます（図中②）。

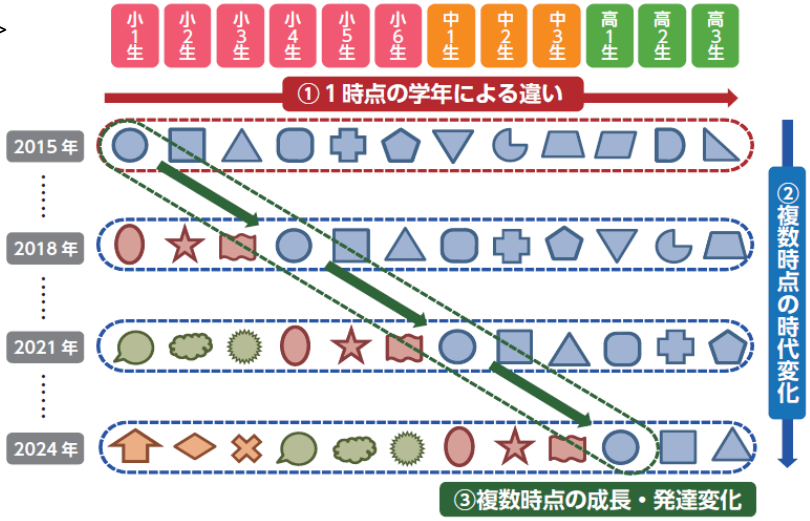
2．親子の「成長・発達」のプロセスをとらえることができる（親子パネルデータ分析）

また、研究プロジェクトでは、同じ子どもとその保護者を継続して調査します。これにより、子どもが毎年どのように成長・発達していくのか、また、それによって保護者のかかわりや意識はどのように変化するのかといった、親子の「成長・発達」の様子や因果関係を明らかにすることができます（図中③）。

3．子どもの生活と学習にかかわる意識や実態を幅広く、詳細にとらえることができる

子どもを対象にした調査では、生活、学習、人間関係、価値観、自立の程度などを幅広く尋ねています。また、保護者を対象にした調査では、子どもへのかかわりや子育て・教育の意識などを尋ねています。この2つの調査から、子どもと保護者の日々の生活や学習の様子を浮かび上がらせるとともに、子どもと保護者の課題に迫ります。

<調査イメージ>



※ 研究プロジェクトの詳細は、最後のページのWEBサイトよりご覧ください。

［本ダイジェスト版について］

- 図表で使用している百分率（%）は、小数第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の結果、数値の和が100.0にならない場合がある。

調査概要

調査概要

●**調査テーマ**　子どもの生活と学習に関する意識と実態　（本体調査・子ども）
保護者の子育て・教育に対する意識と実態　（本体調査・保護者）
休校時期や学校再開時期の子どもの意識と実態（中高生追加Web調査）

●**調査時期**　2020年7月～9月（本体調査）、2020年8月～9月（中高生追加Web調査）

●**調査方法**　郵送法による自記式質問紙調査（本体調査）、Web調査（中高生追加Web調査）

●**調査対象**　全国の小学1年生から高校3年生の子どもとその保護者　※小学1～3年生は保護者が回答（本体調査）。
全国の中学1年生から高校3年生の子ども（中高生追加Web調査）

発送数・回収数

本体調査2020年

学年	発送数	保護者票		子ども票	
		有効回収数	有効回収率	有効回収数	有効回収率
小1～3生	5,921	5,146	86.9%		
小4～6生	5,639	4,488	79.6%	4,483	79.5%
中学生	4,595	3,361	73.1%	3,360	73.1%
高校生	4,258	2,832	66.5%	2,831	66.5%
小1～高3合計	**20,413**	**15,827**	**77.5%**		
小4～高3合計	**14,492**	**10,681**	**73.7%**	**10,674**	**73.7%**

中高生追加Web調査

学年	発送数	回収数	回収率
中1生	1,553	849	54.7%
中2生	1,583	781	49.3%
中3生	1,425	710	49.8%
高1生	1,400	634	45.3%
高2生	1,380	571	41.4%
高3生	1,435	571	39.8%
合計	**8,776**	**4116**	**46.9%**

分析サンプル

	小1～3生	小4～6生	中学生	高校生
2016年	4,915	3,797	3,706	3,425
2018年	4,928	3,616	2,967	2,910
2019年	5,175	4,071	3,168	2,892
2020年	5,127	4,407	3,323	2,789
中高生追加Web調査	－	－	2,149	1,606

※ 本ダイジェスト版では、複数時点の時代変化を捉えるために、2016年、2018年、2019年に実施した本体調査の結果と比較している。

	小1生	小2生	小3生	小4生	小5生	小6生	中1生	中2生	中3生	高1生	高2生	高3生
2016年	1,853	1,668	1,394	1,354	1,225	1,218	1,172	1,244	1,290	1,191	1,098	1,136
2018年	1,739	1,642	1,547	1,328	1,136	1,152	1,004	974	989	982	950	978
2019年	1,740	1,732	1,703	1,492	1,379	1,200	1,136	1,032	1,000	967	970	955
2020年	1,884	1,596	1,647	1,563	1,472	1,372	1,155	1,128	1,040	921	916	952
中高生追加Web調査	－	－	－	－	－	－	768	713	668	574	503	529

※ 本文中のマーク表示について
・単年度の調査結果：子ども2020 は2020年の子どもの回答、保護者2020 は2020年の保護者の回答を示している。
・経年調査結果：子ども2019-2020 は2019年と2020年の子どもの回答、保護者2016-2020 は2016年から2020年の間に実施した保護者の回答を示している。

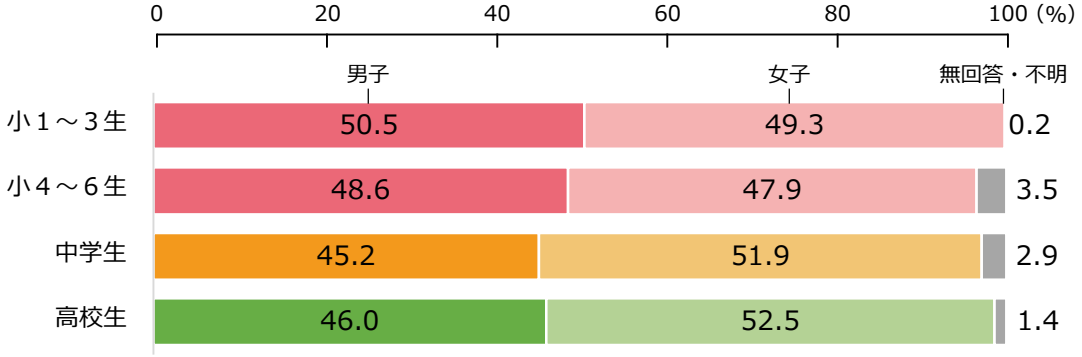
※ 本分析では、各調査年で回答があったものを対象としている。ただし、①親もしくは子どもの片方回答（小4～高3生）、②親子で学年の回答が不一致、③調査発送時の学年と回答学年 が不一致、④「在学していない」と回答したケースは、分析対象から除外している。

※ 中高生追加Web調査の分析サンプルは、本体調査と追加Web調査の両方を回答しており、かつ学年が2020年と一致しているものを扱っている。

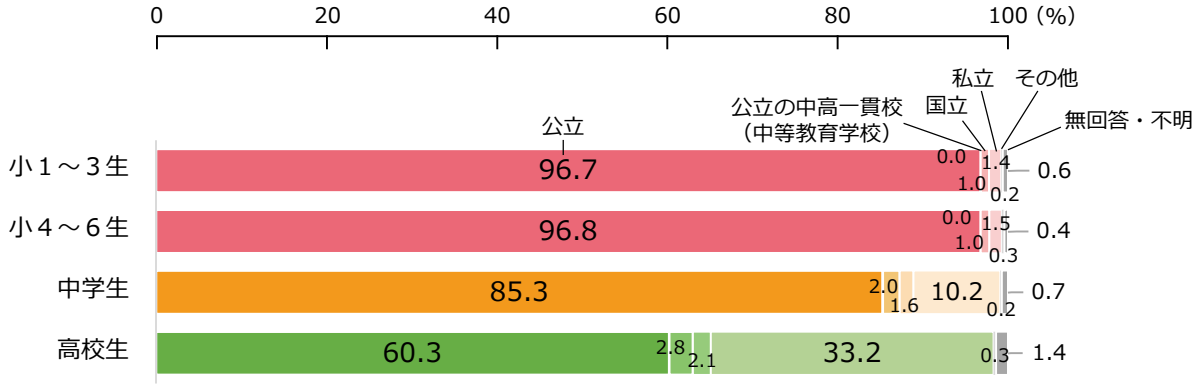
調査概要

基本属性2020年度

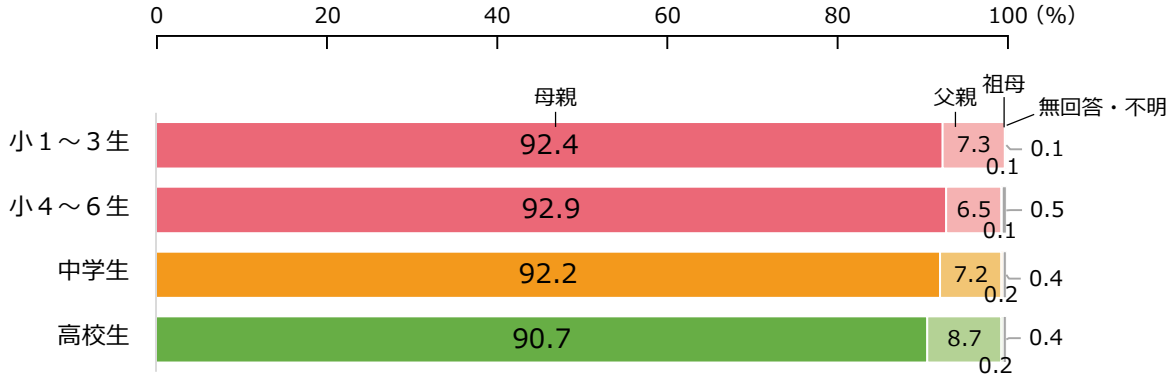
●子どもの性別（学校段階別）



●子どもが通っている学校の種類（学校段階別）

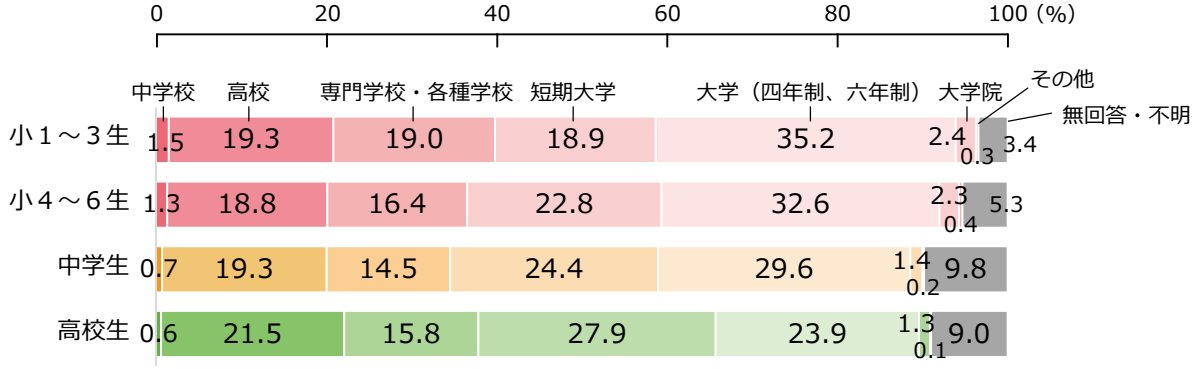


●保護者（回答者）と子どもの続柄（学校段階別）



※「祖父」、「その他」は０％のため、表示していない

●母親の最終学歴（学校段階別）



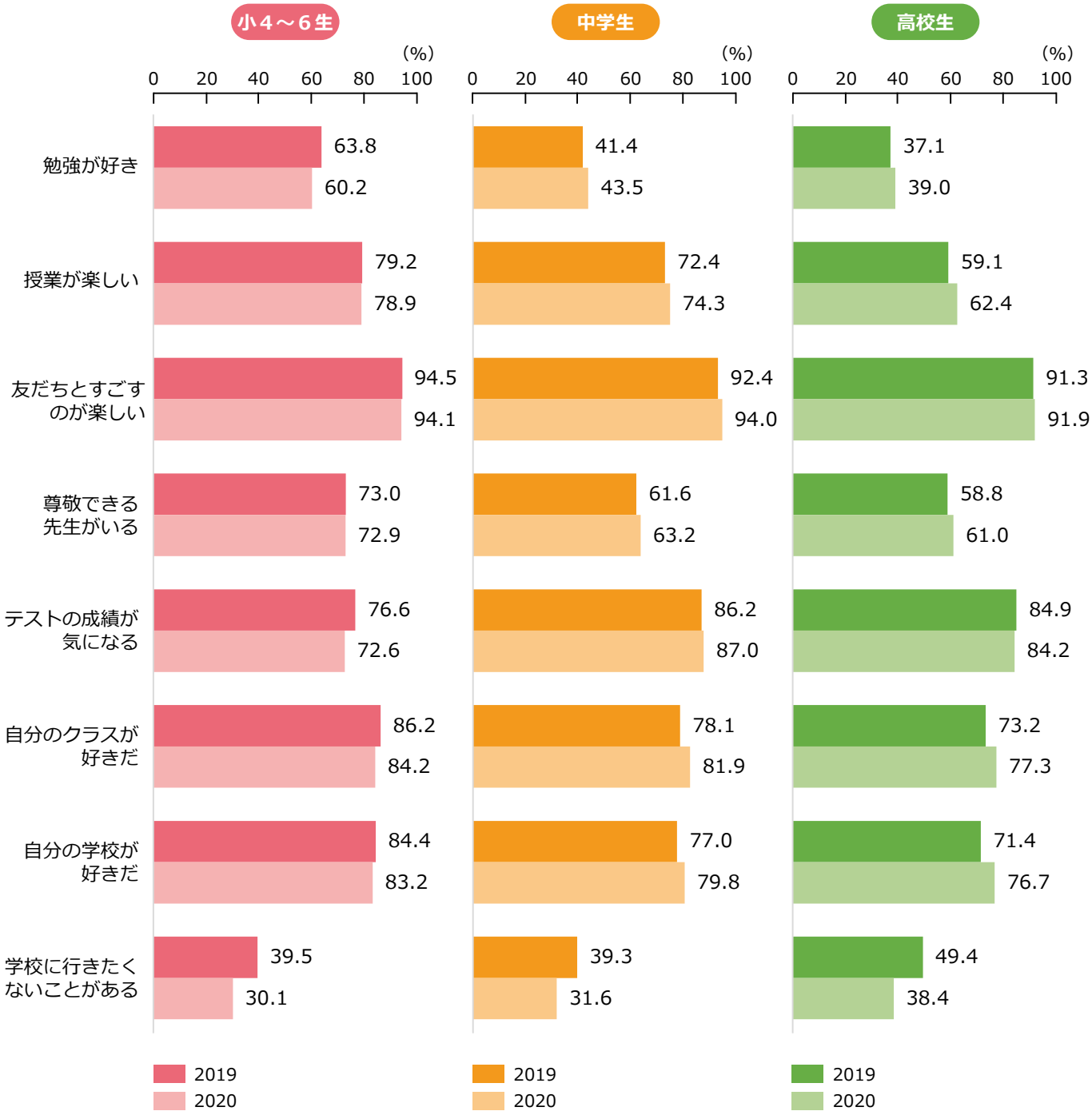
※「わからない」は０％のため、表示していない

Ⅰ. 学校生活の変化　①学校生活への意識

学校生活（7月～9月時点）に関する意識は、昨年とあまり変わらないが、「学校に行きたくないことがある」は低下している。高校生では、「自分の学校が好きだ」が増えている。

Q　学校生活について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。　子ども2019-2020

図１－１ 学校生活への意識



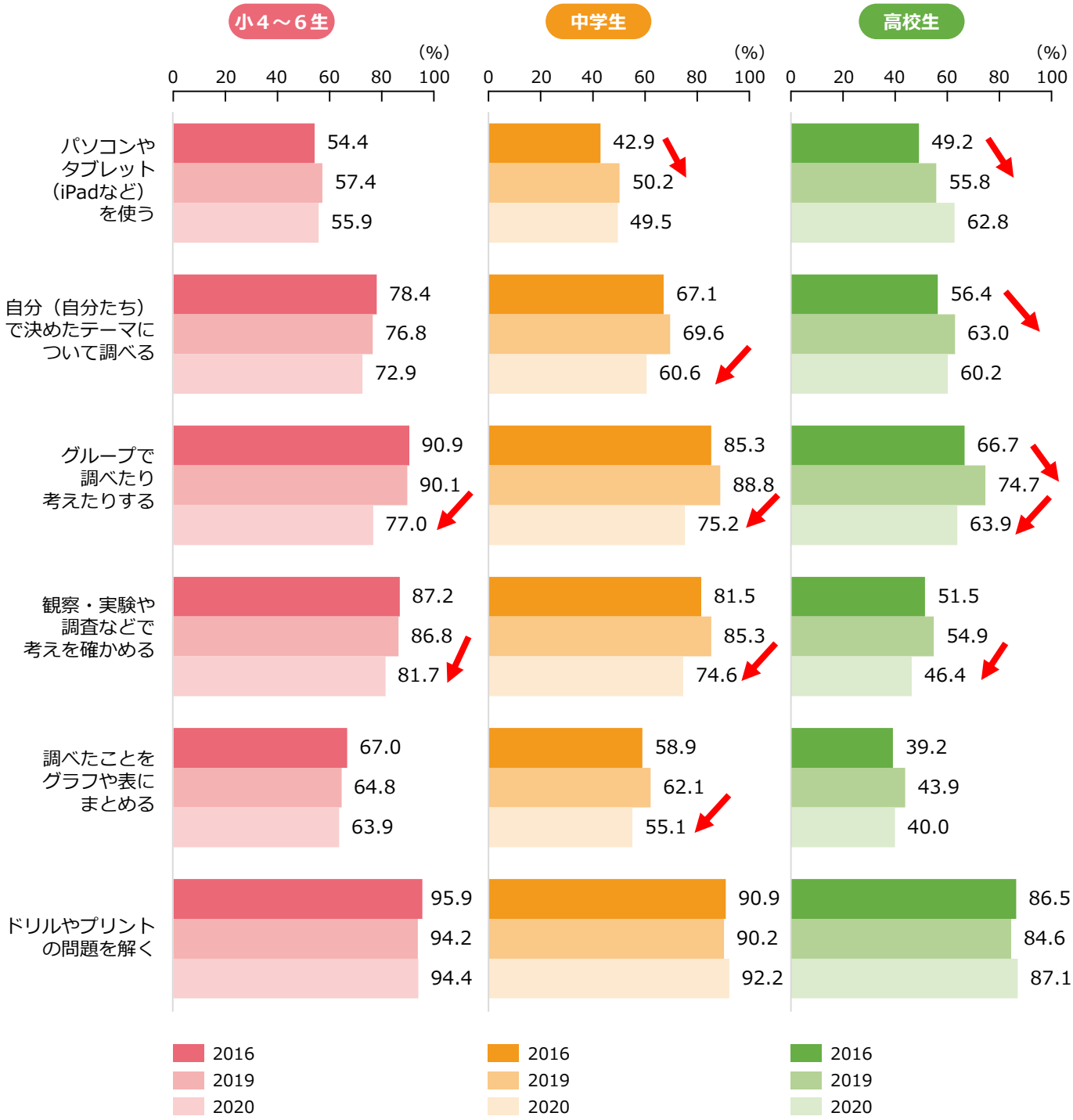
※「とてもあてはまる＋まああてはまる」の%

②学校の授業

グループ学習や調べ学習といった「アクティブラーニング型の授業」が減少している。特に中高生では、2016年から2019年は増加するも、2020年で減少傾向にある。高校生では、「パソコン・タブレット使用」した授業が増加している。

Q この１年くらいの間に、学校の授業で、次のようなことはどれくらいありましたか。 子ども2016-2020

図１－２ 学校の授業（学校段階別）



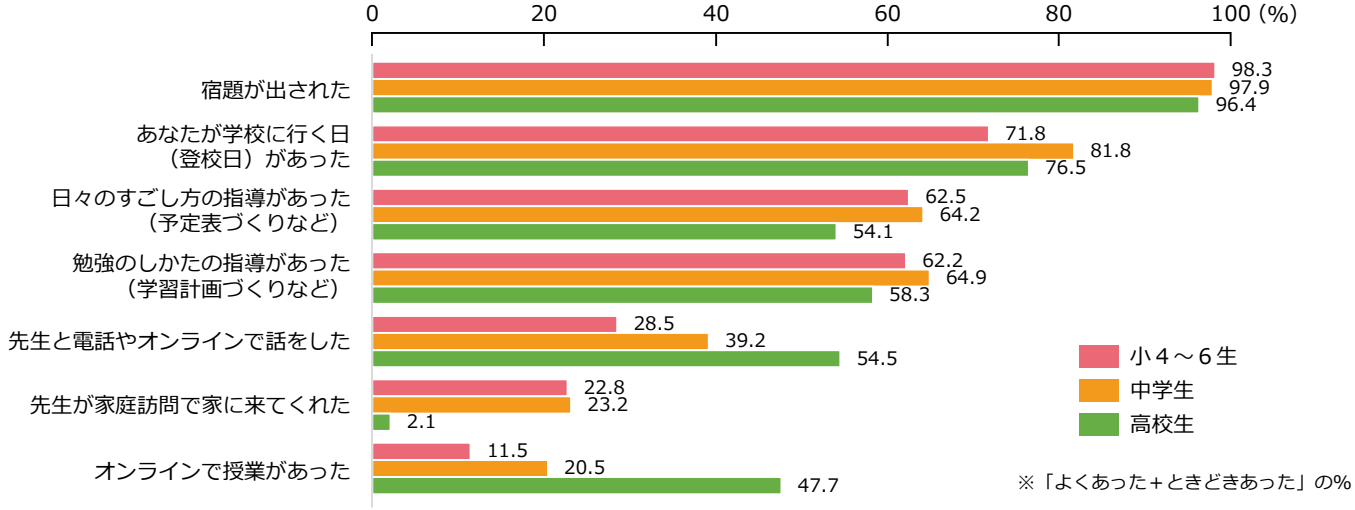
※「よくあった＋ときどきあった」の%
※5ポイント以上差があるものに→をつけている

③休校中の学校の対応

休校中、学年を問わずほぼすべての子どもが「宿題が出された」と回答。宿題時間の成績差は小さいが、宿題の達成状況には成績差がみられる。他方、「先生と電話やオンランで話をした」「オンラインで授業があった」は、小中学生と比べて高校生で高く、5割前後であった。

Q 休校のときの学校の状況や対応について、次のようなことはありましたか。 子ども2020

図１－３ 休学中の学校の対応（学校段階別）



Q 「宿題があった」人にお聞きします。 子ども2020

①出された宿題の量は、１日どれくらいの時間がかかるものでしたか。

②あなたは出された宿題を終えることができましたか。

図１－４ 休学中の学校の宿題時間（学校段階・成績層別）

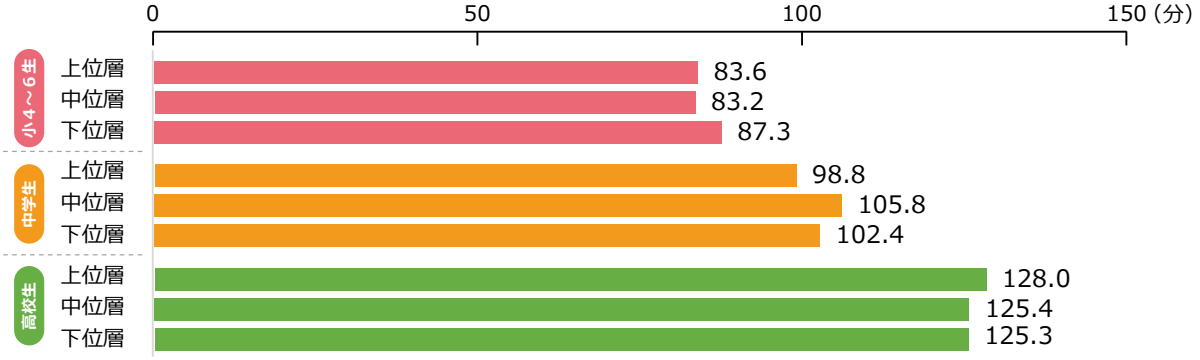
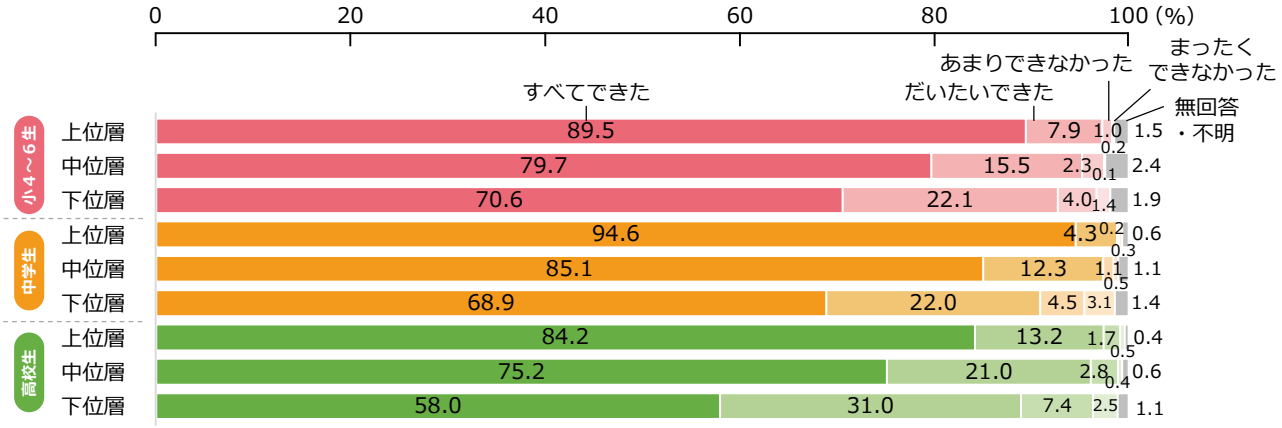


図１－５ 休学中の学校の宿題の達成状況（学校段階・成績層別）



※ 図１－４と図１－５は、「宿題が出された」に「よくあった」と「ときどきあった」と回答した人のみ集計。

※「宿題時間」は、「30分」を「30分」、「1時間」を「60分」、「４時間」を「240分」、「４時間以上」を「270分」などと置き換えて、「無回答・不明」を除外した上で算出。

④休校中の宿題の内容

全体でみると、中学生は復習の宿題が多く、高校生は予習型と復習型が約半々となっている。中高生とも、低学年ほど、また休校期間が長いほど、「これから習う内容の予習」の比率が高かった。

Q 休校期間中に学校から出された宿題の内容は、「今までに習った内容の復習」と「これから習う内容の予習」のどちらが多かったですか。

子ども2020

図１－６ 休学中の学校の宿題の内容 中学生

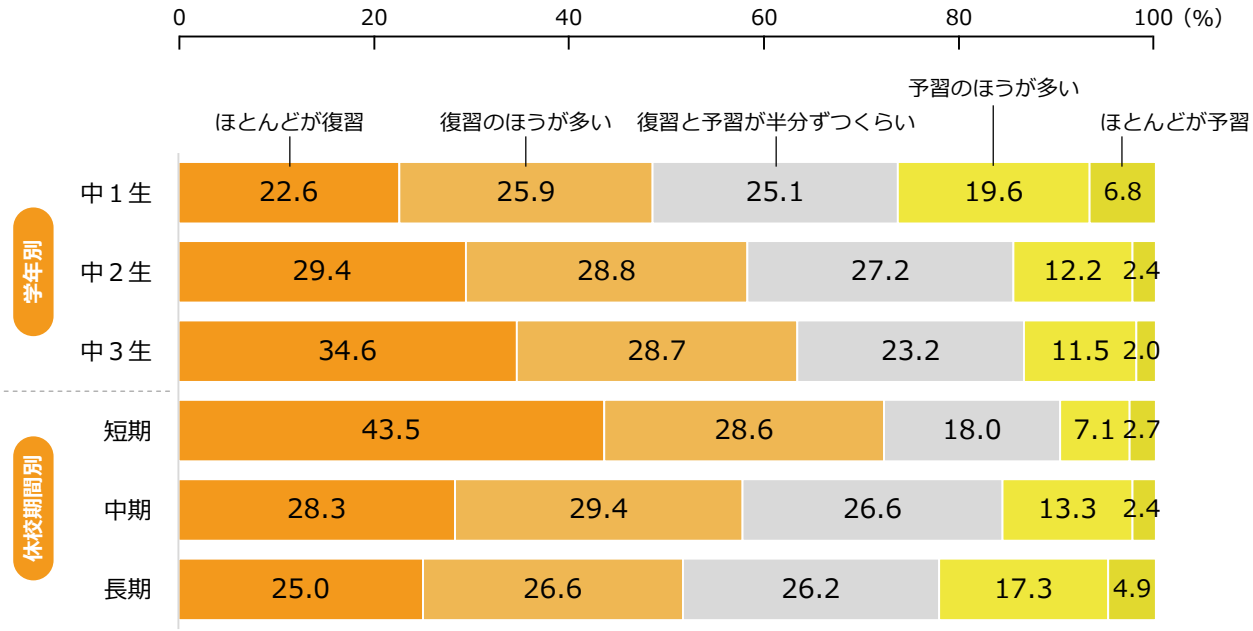
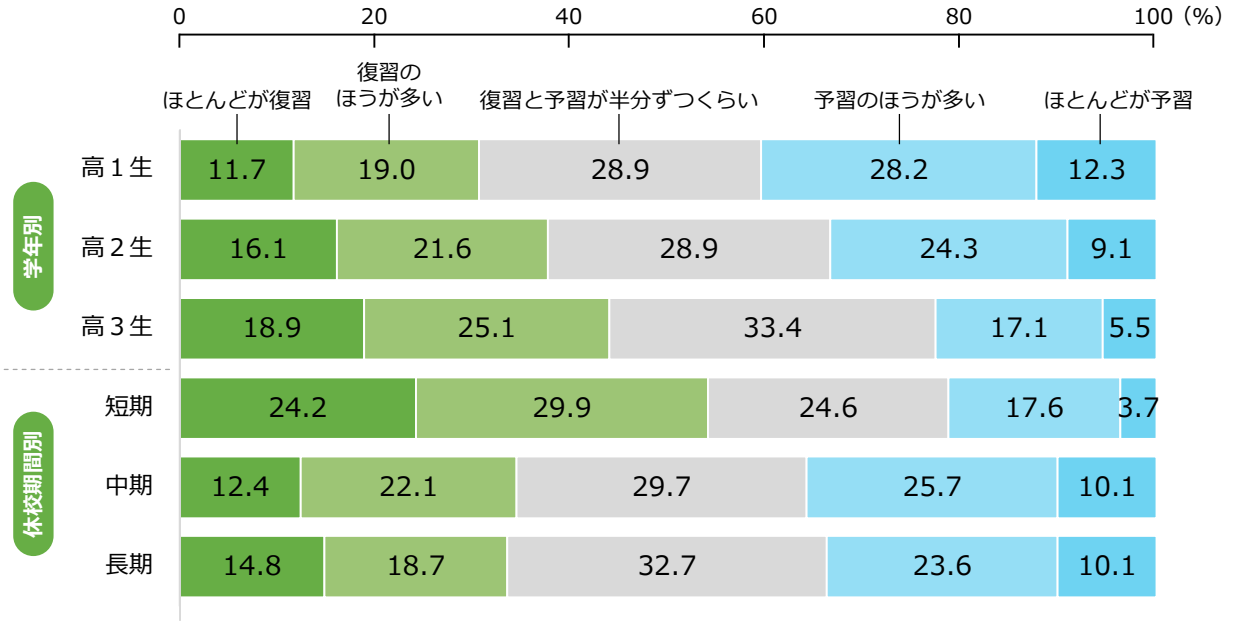


図１－７ 休学中の学校の宿題の内容 高校生



※「中高生追加Web調査」で、休校中に「宿題があった」（＝休校中に宿題が「ほとんどなかった」と回答した人以外の）中高生を対象に集計。
※ 休校期間について、「休校はまったくなかった」～「１か月くらい」を「短期」、「２か月くらい」を「中期」、「３か月くらい」～「４か月よりも長い」を「長期」とした。

⑤休校中の宿題の種類

休校中、9割を超える中高生が「ドリルやプリントの問題を解く」宿題が出たと回答。インターネット（オンライン）を使った宿題は、中学生よりも高校生で多い。それらは中高生とも公私による差が大きいが、特に公立中学生で低くなっている。

Q 休校期間中に学校から次のような宿題や課題は出ましたか。 子ども2020

図１－８ 休学中の宿題の種類（学校段階別）

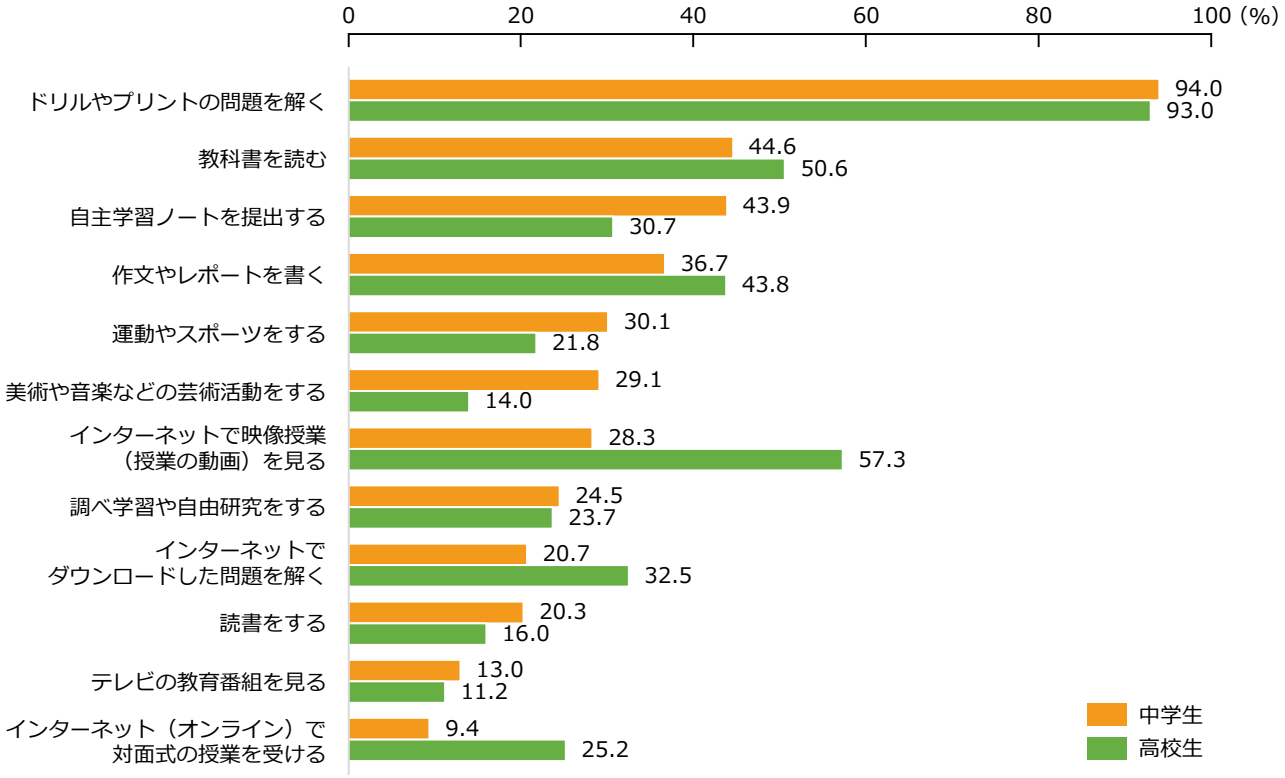


図１－９ 休学中の宿題の種類

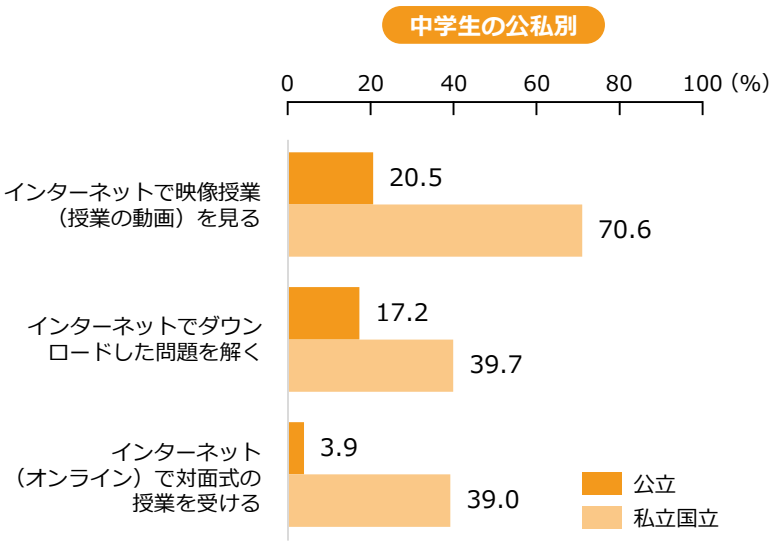
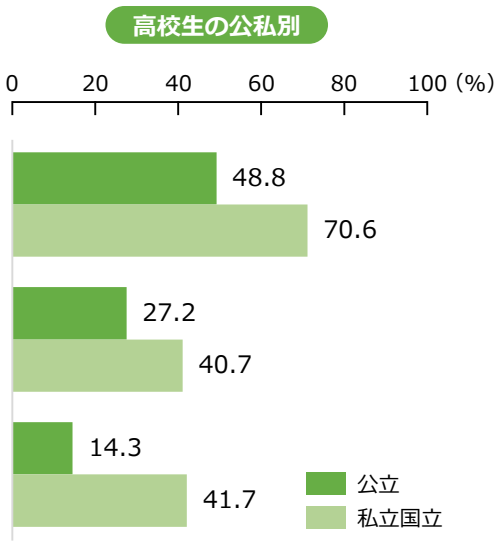


図１－１０ 休学中の宿題の種類



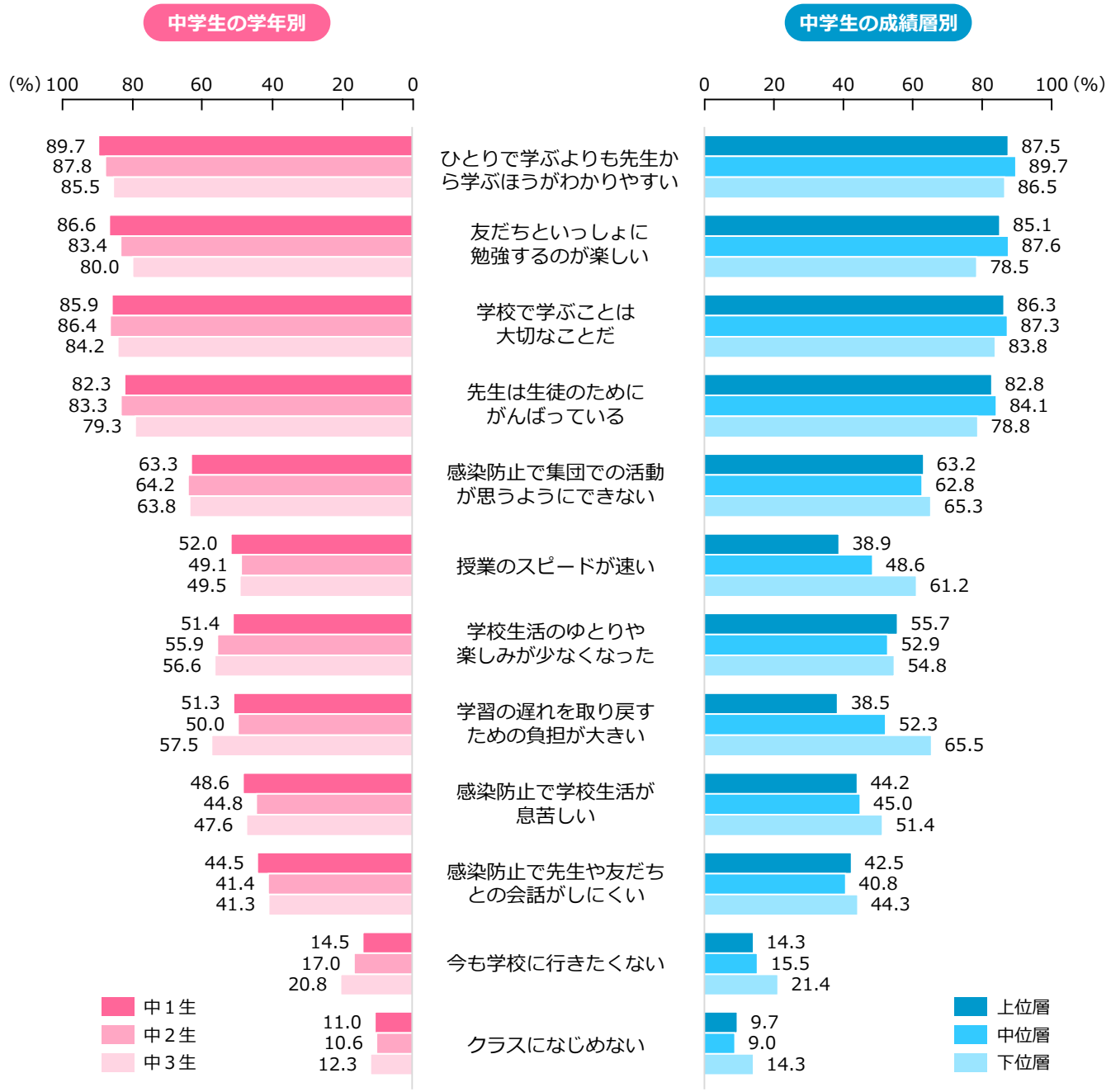
※「中高生追加Web調査」で、休校中に「宿題があった」（＝休校中に宿題が「ほとんどなかった」と回答した人以外の）中高生を対象に集計。
※「たくさん出た＋まあまあ出た」の%。
※ 図１－９と図１－１０は、インターネット（オンライン）を使った宿題である３項目を取りあげて示した。

⑥学校再開後の状況

先生や友だちと学ぶことへの肯定率は8～9割と高い。一方で、「学習の遅れを取り戻すための負担が大きい」「授業のスピードが速い」は成績下位層ほど顕著に高い。

Q 学校が再開してから後の学校の状況について、次のようなことはどれくらい感じますか。 子ども2020

図１－１１ 学校再開後の状況



※ 中学生のみ分析。
※「とても感じる＋まあ感じる」の%。
※ 中１生の比率が高い項目から順に示している。

2. 家庭の変化　①今後の収入変化

新型コロナ感染拡大の影響により、今年（2020年）の収入は「減る」と予測した人は4～5割。世帯年収別にみると、収入が低い世帯ほど「かなり減ると思う」「多少は減ると思う」と回答した比率が高い。

Q 新型コロナ感染拡大の影響は、今年の収入にどれくらい変化をもたらしそうですか。
昨年の収入（世帯全体）と比べてお答えください。

保護者2020

図２－１ 新型コロナ感染拡大の影響による収入変化（学校段階別）

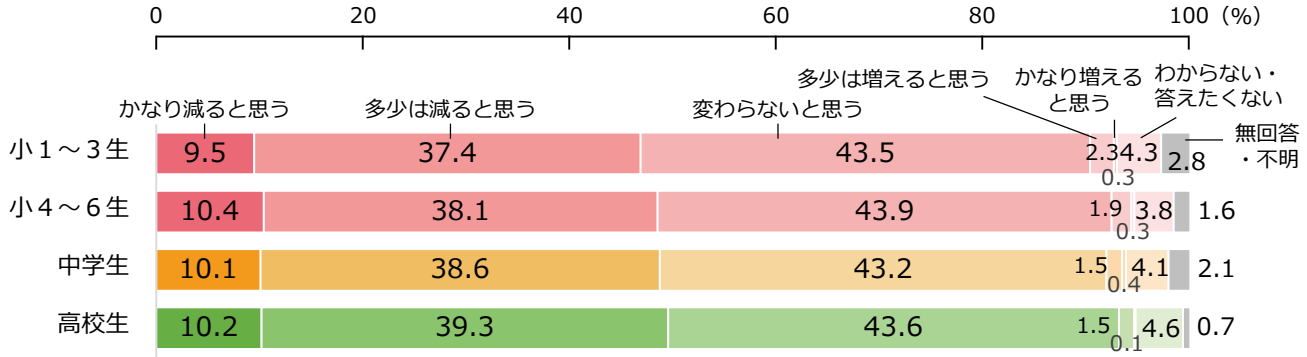
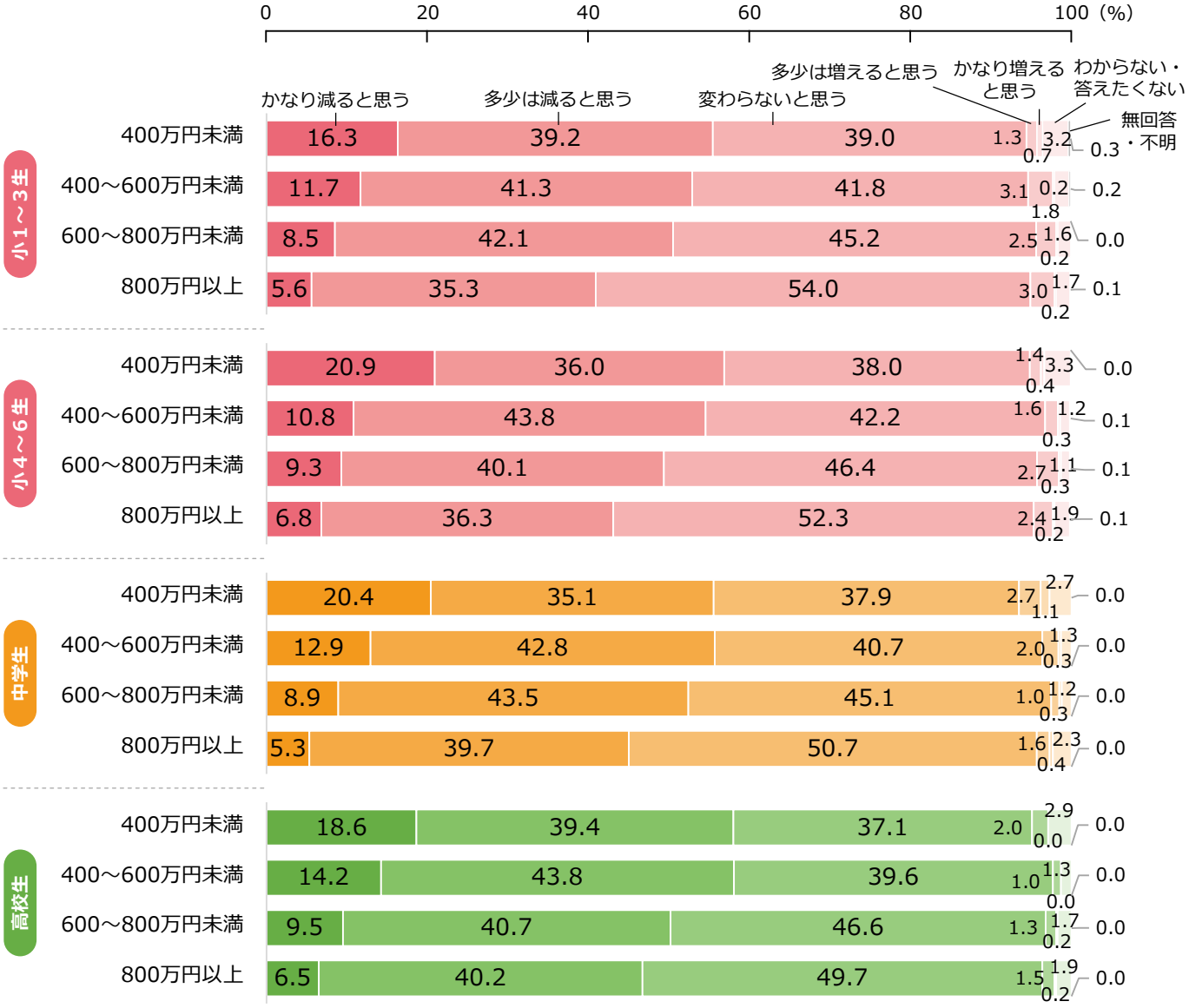


図２－２ 新型コロナ感染拡大の影響による収入変化（学校段階別・世帯収入別）



2. 家庭の変化　②悩みや気がかり

2018年に比べて2020年では、子どもの「ゲームのしかた」や「携帯・スマホの使い方」に関する悩みが増えている。また、外出自粛の影響もあり、子どもの「運動不足」への心配も増加している。

Q あなたは、調査の対象となっているお子様やあなたご自身のことについて、次のような「悩みや気がかり」がありますか。　保護者2018-2020

図２－３ 悩みや気がかり（学校段階別）

保護者の悩み・気がかり	小１～３			小４～６			中学生			高校生		
	2018	2020	差 (2020-2018)	2018	2020	差 (2020-2018)	2018	2020	差 (2020-2018)	2018	2020	差 (2020-2018)
ゲームのしかた（内容・しすぎなど）	28.3	36.1	7.8	38.2	46.2	8.0	33.0	35.7	2.7	23.3	22.8	-0.5
携帯電話やスマートフォンの使い方	11.6	14.7	3.1	16.7	22.6	5.9	44.9	48.6	3.7	58.4	52.7	-5.7
運動不足	16.9	24.9	8.0	22.0	33.6	11.6	16.3	24.6	8.3	22.9	30.1	7.2

2018年→2020年でプラス10ポイント以上　2018年→2020年でプラス5ポイント以上　2018年→2020年でマイナス５ポイント以下

※ 複数回答。　※ 40項目のうち各学校段階で5ポイント以上差があったものを掲載。
※ 保護者の悩みや気がかりは2019年では尋ねていないため、2018年と比較。

休校による学習への影響は、成績下位層の保護者ほど心配している。特に、「休校中の学習内容を理解できているか心配だ」は、成績上位層に比べて約30～40ポイント高い。

Q 調査の対象となっているお子様の教育について、次のことはどれくらいあてはまりますか。　保護者2020

図２－４ 休校中の学習内容が理解できているか心配だ（学校段階別・成績層別）

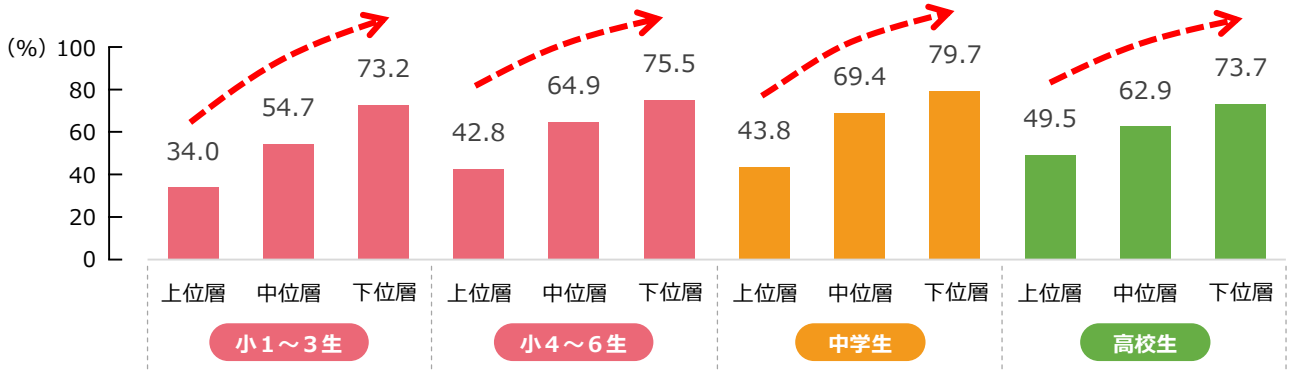
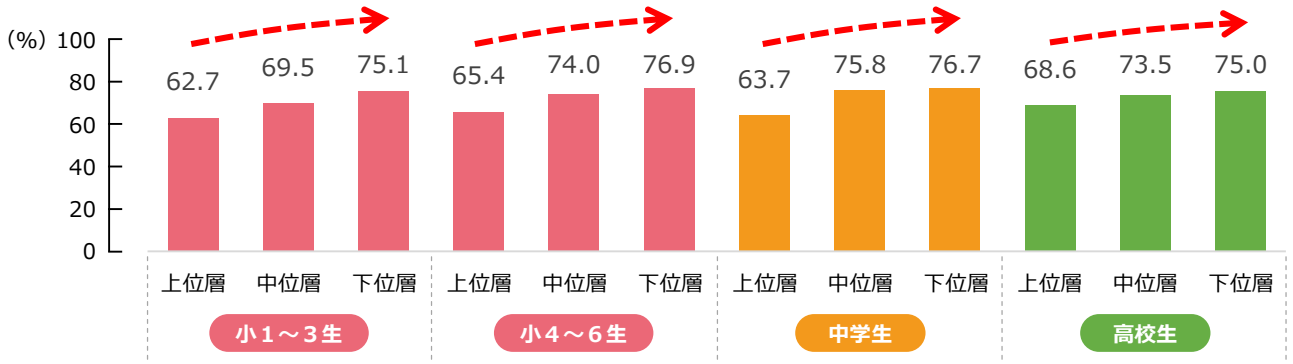


図２－５ 新型コロナ感染拡大の影響で学習や体験が不足しないか心配だ（学校段階別、成績層別）



※「とてもあてはまる＋まああてはまる」の%

③社会に対する意識

2019年に比べ、「日本社会への将来不安」は親子ともに高まっている。特に、保護者の「とてもあてはまる」が増えている。

Q 今後の社会について、あなたの考えをお聞きします。

図２－６ これからの「日本」がどうなるか不安だ（学校段階別）

保護者2019-2020

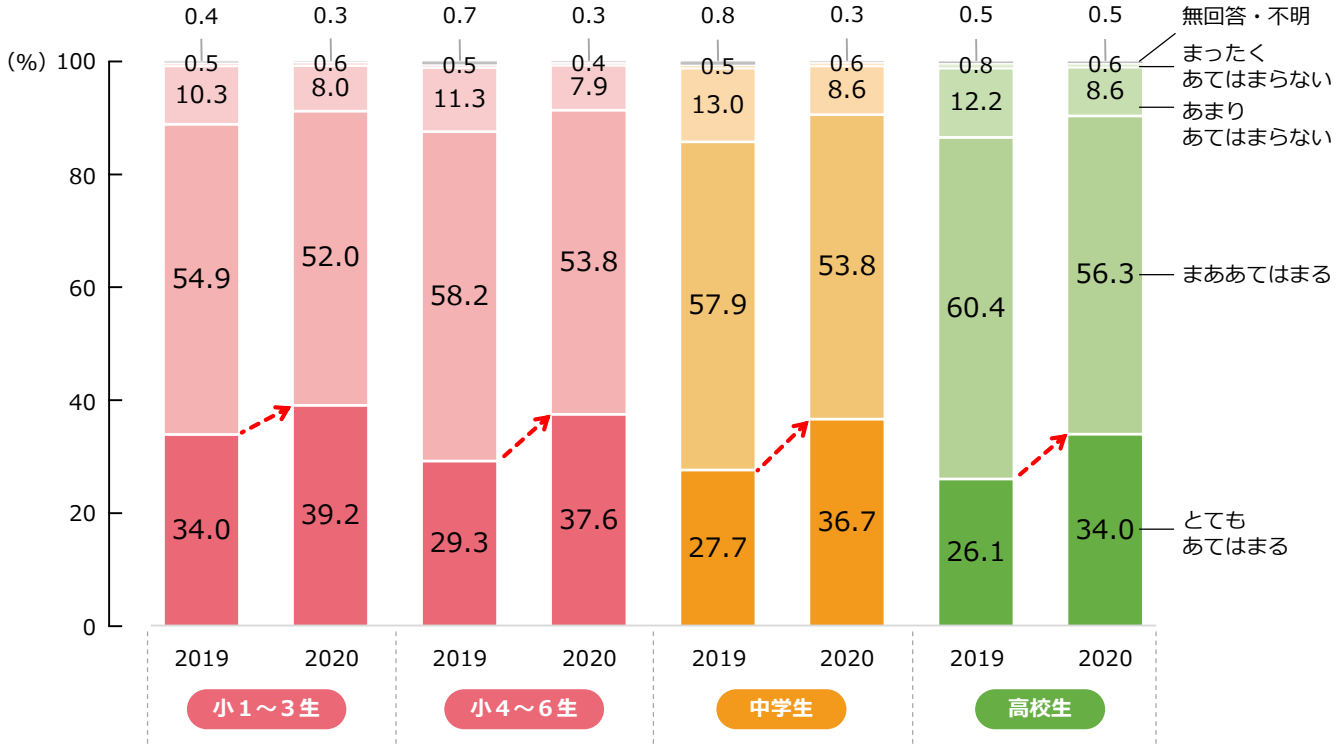
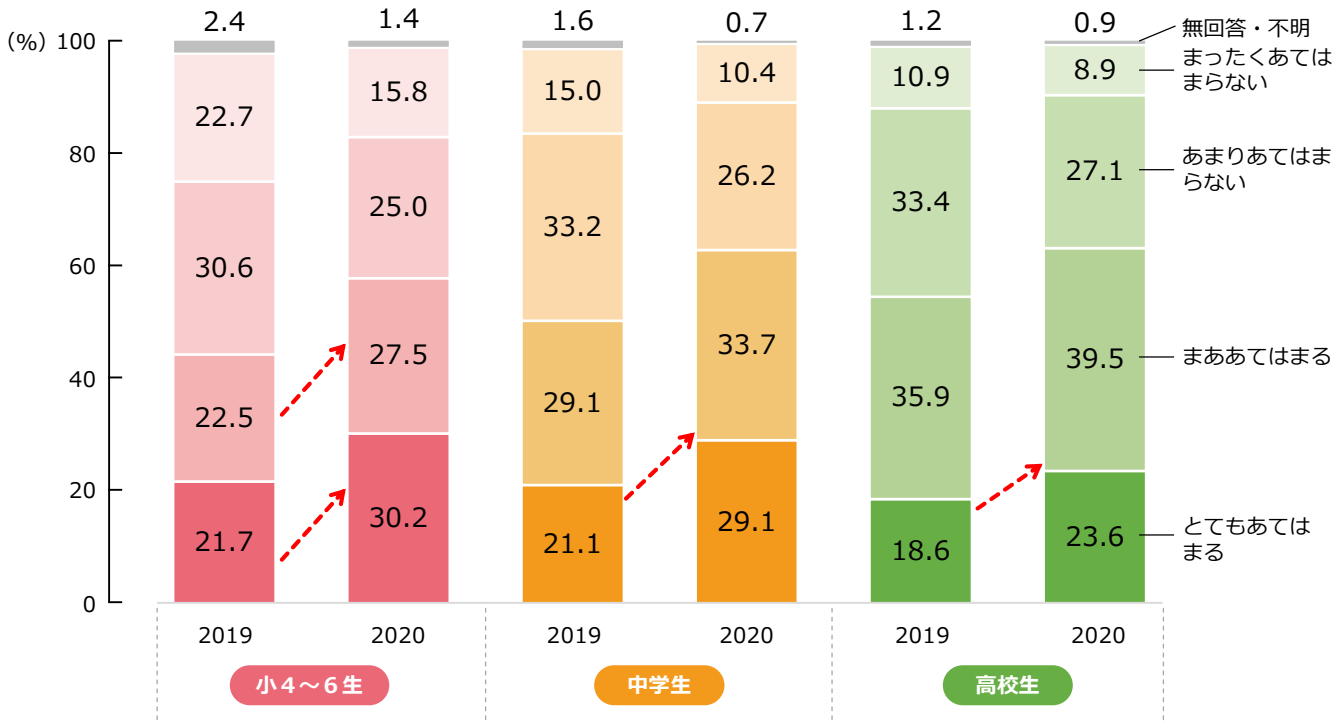


図２－７ これからの「日本」がどうなるか不安だ（学校段階別）

子ども2019-2020



※5ポイント以上増えたものに→をつけている

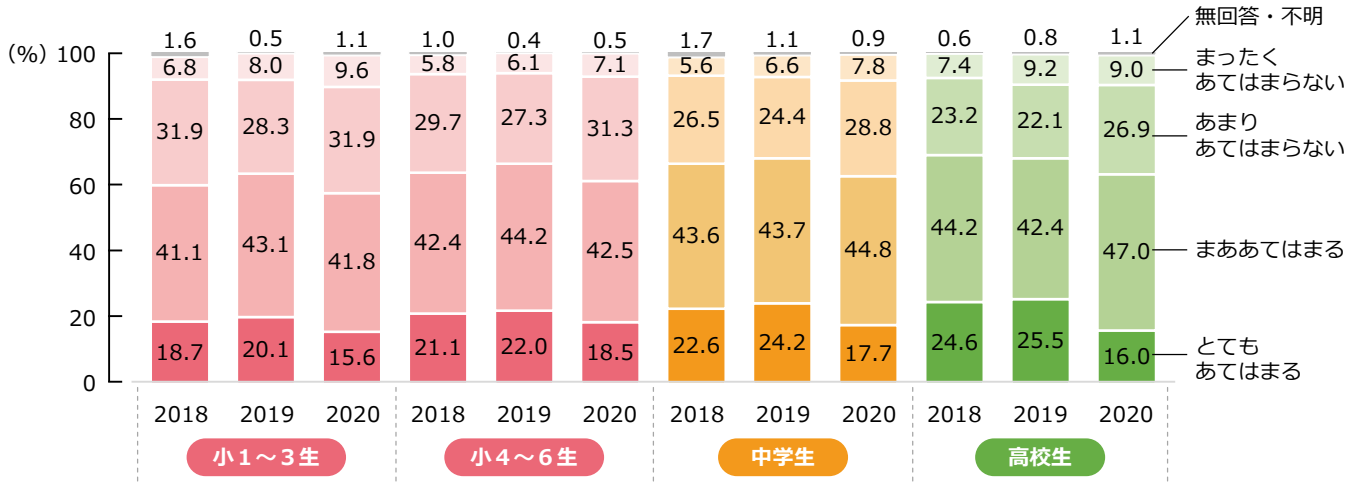
④保護者の教育意識Ⅰ

2019年から2020年にかけて、「いい大学に入れるように成績を上げてほしい」は低下傾向。

Q 調査の対象となっているお子様の教育について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

保護者2018-2020

図２－８ できるだけいい大学に入れるように成績を上げてほしい（学校段階別）

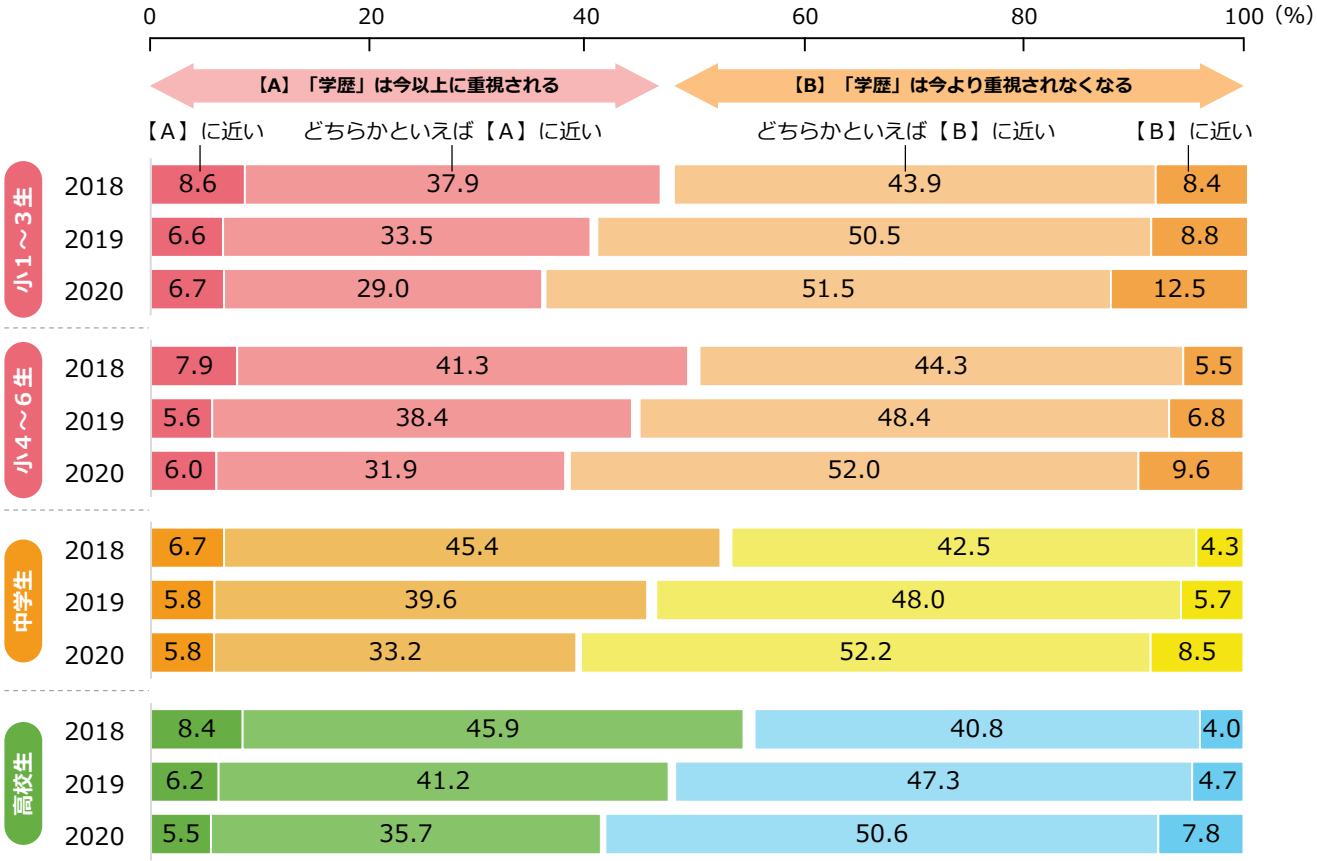


学歴は「今以上に重視される」より、「今より重視されなくなる」のほうが年々増加している。

Q 今後の社会について、あなたの考えをお聞きします。
【A】と【B】の２つの意見のうち、あなたの考えに近いのはどちらですか。

保護者2018-2020

図２－９ 「学歴」は今以上に重視される／「学歴」は今より重視されなくなる（学校段階別）



※「無回答・不明」を提示していないため、数値の和が100%にならない。

⑤保護者の教育意識Ⅱ

2018年から2020年にかけて、「知識以外の多様な力を身につけさせたい」、「英語力を身につけさせたい」の「とてもあてはまる」が続伸している。

Q 調査の対象となっているお子様の教育について、次のことはどれくらいあてはまりますか。

保護者2018-2020

図２－１０　知識以外の多様な力（思考力・判断力・表現力など）を身につけさせたい
（学校段階別）

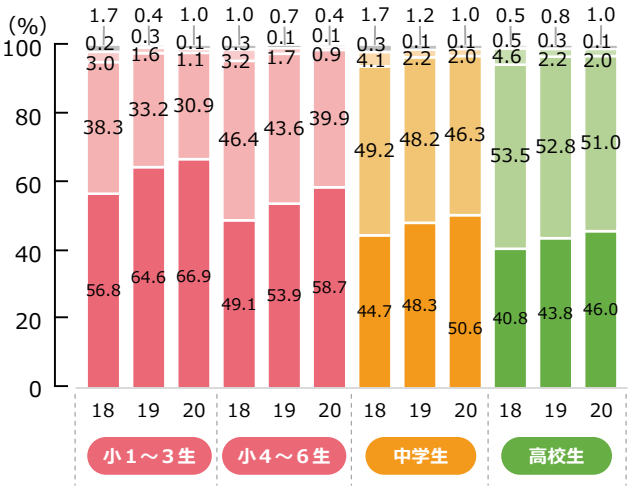
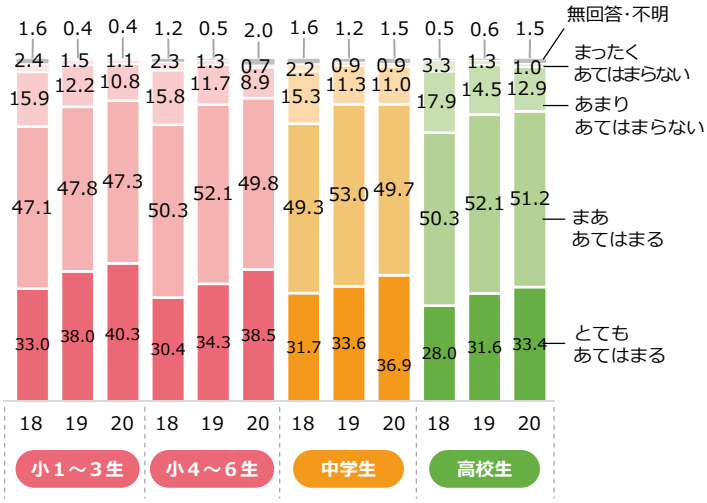


図２－１１　実際の場面で使える英語力を身につけさせたい
（学校段階別）

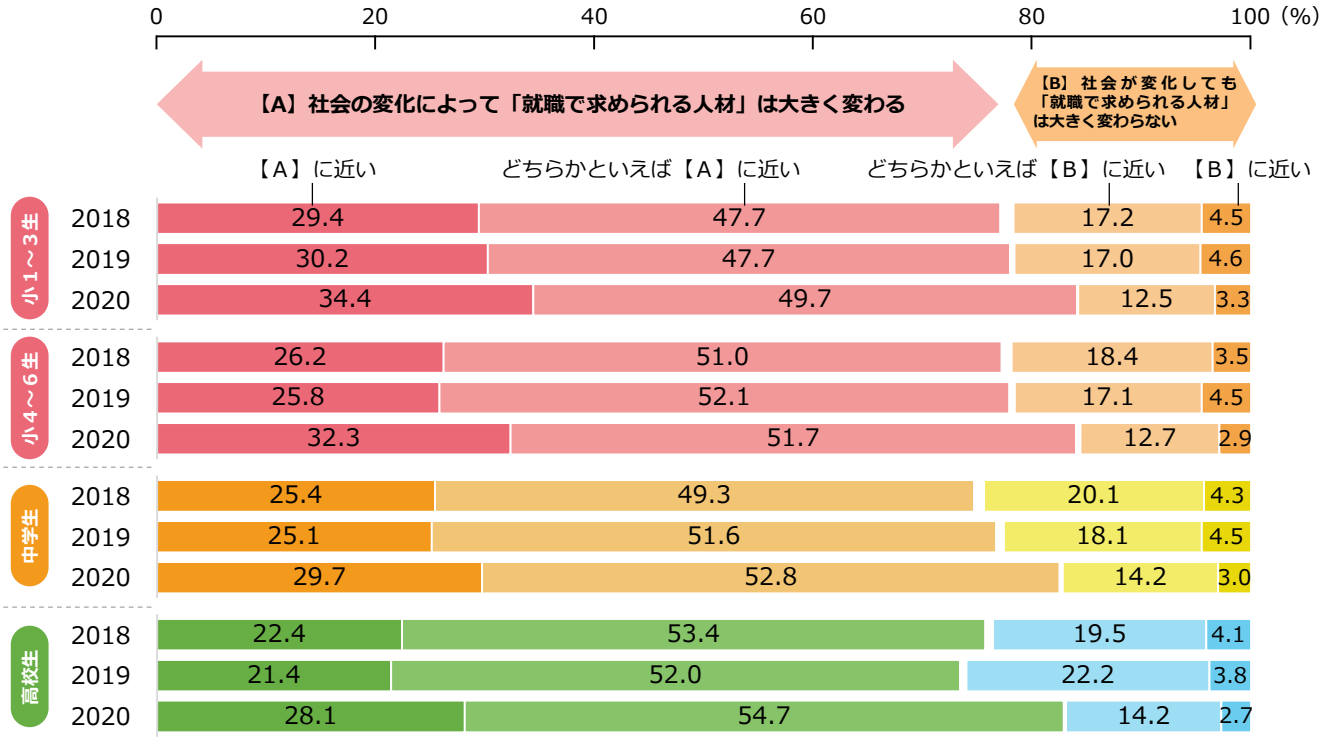


2019年から2020年にかけて、「『就職で求められる人材』は大きく変わる」が増加している。

Q 今後の社会について、あなたの考えをお聞きします。
【A】と【B】の２つの意見のうち、あなたの考えに近いのはどちらですか。

保護者2018-2020

図２－１２　社会の変化によって「就職で求められる人材」は大きく変わる／変わらない（学校段階別）



※「無回答・不明」を提示していないため、数値の和が100%にならない。

3. 子どもの生活・学びの変化　1）生活 ①メディア利用時間

2019年に比べ、小中学生のゲーム時間は増加傾向にある（小1～3生 ＋10分、小4～6生 ＋12分、中学生＋8分、高校生＋3分）。携帯・スマホ利用時間も微増している（小4～6生 ＋4分、中学生＋8分、高校生＋7分増）。

Q あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、１日にどれくらいの時間やっていますか。（学校段階別、学年別）

子ども2019-2020

図３－１ ゲーム時間

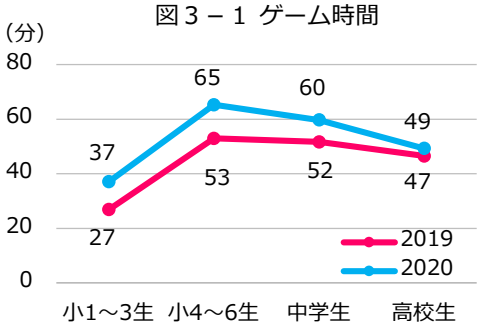


図３－２ ゲーム時間

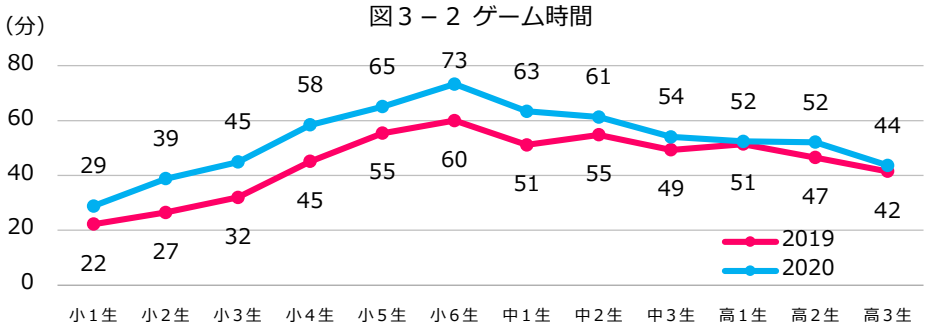


図３－３ 携帯・スマホ時間

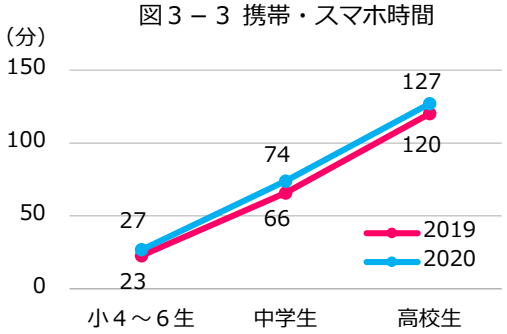
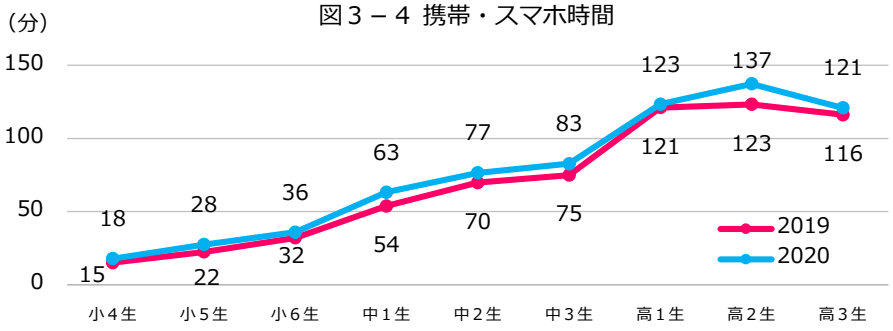


図３－４ 携帯・スマホ時間



中学生のスマホ使用（自分専用のもの）の伸びが著しい。

Q あなたは、次のようなデジタル機器を、家で使っていますか。

子ども2018-2020

図３－５ スマートフォン（学校段階別）

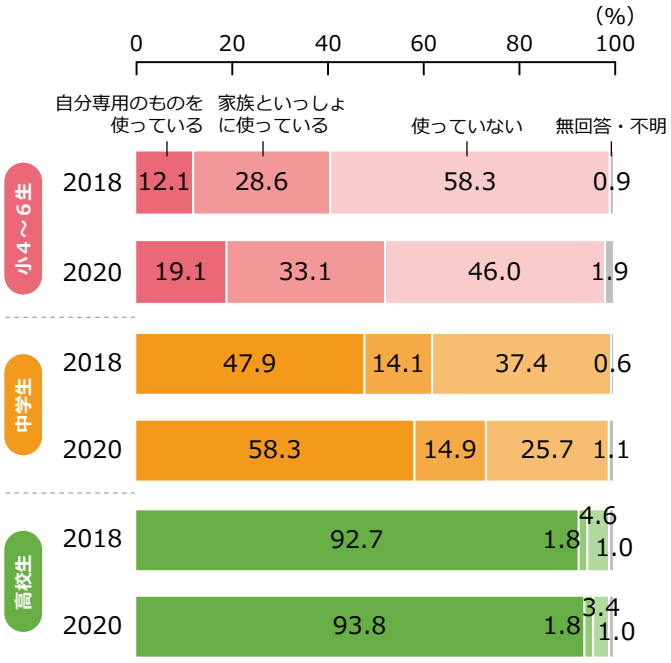
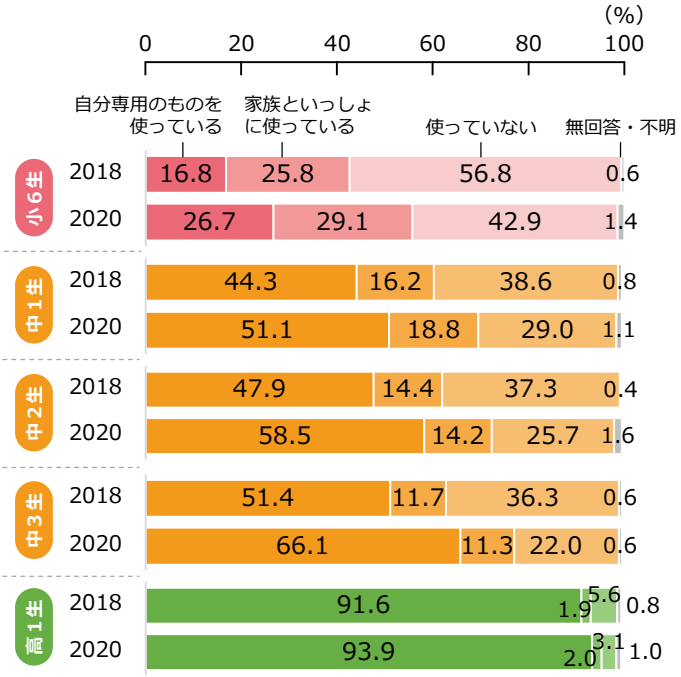


図３－６ スマートフォン（学年別、小６～高１生）



ゲームや携帯・スマートフォンを使う時間は休校時に増加し、学校再開後も過去の水準に戻らず多いままである。

子ども2019-2020

Q [2019/2020年] あなたはふだん（学校がある日）、次のことを、１日にどれくらいの時間やっていますか。

Q [休校時] あなたは休校期間中に、次のことを、１日にどれくらいの時間やっていましたか。

図３－７

	中学生全体				中１生			
	2019年	休校時	2020年	差 (2020-2019)	2019年	休校時	2020年	差 (2020-2019)
テレビやDVDを見る	78	106	75	-3	78	112	80	2
テレビゲームや携帯ゲーム機で遊ぶ	52	82	60	8	51	86	63	12
携帯電話やスマートフォンを使う	66	90	74	8	54	76	63	9
パソコンやタブレット（iPadなど）を使う	29	55	33	4	26	57	33	7
音楽を聴く	35	46	38	3	26	39	32	6
本を読む	17	21	17	0	19	23	18	-1
マンガや雑誌を読む	14	24	14	0	14	24	15	1
新聞を読む	2	2	2	0	2	2	2	0
運動やスポーツ（習い事、部活動を除く）	20	28	19	-1	22	30	22	0
友だちと遊ぶ・すごす	54	30	49	-5	58	38	55	-3
家族とすごす	191	214	192	1	208	220	205	-3
自分１人ですごす	81	122	89	8	66	105	76	10

2019年→2020年でプラス10ポイント以上　2019年→2020年でプラス5ポイント以上　2019年→2020年でマイナス５ポイント以下

※ それぞれの平均時間は、「しない」を「0分」、「4時間」を「240分」、「4時間以上」を「300分」などと置き換えて、「無回答・不明」を除いて算出。学校の中でやる時間は除く。

中学生の成績層別の学習時間の格差が拡大（全体：15分→28分）。特に、中１生（19分→33分）と中３生（11分→34分）で格差が拡大した。

図３－８ 中学生の学習時間（成績上位層・下位層別）

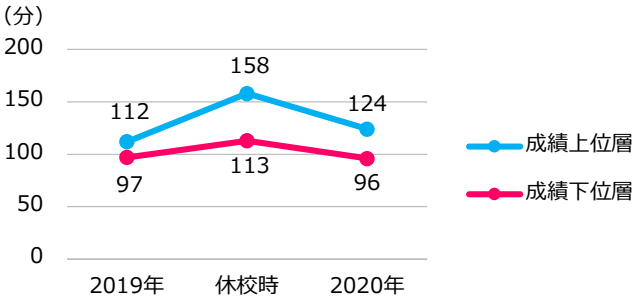


図３－９ 中１生の学習時間（成績上位層・下位層別）

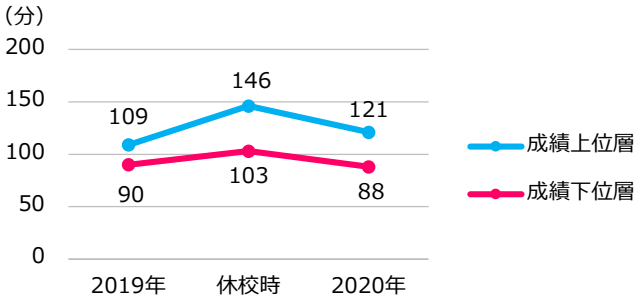


図３－１０ 中２生の学習時間（成績上位層・下位層別）

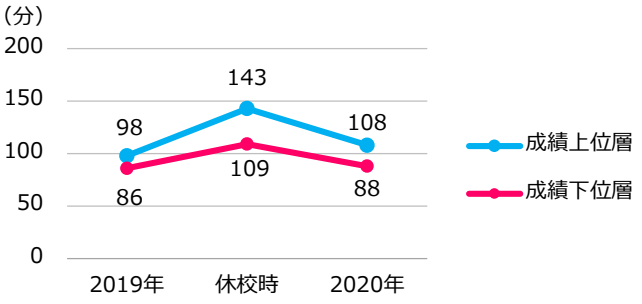
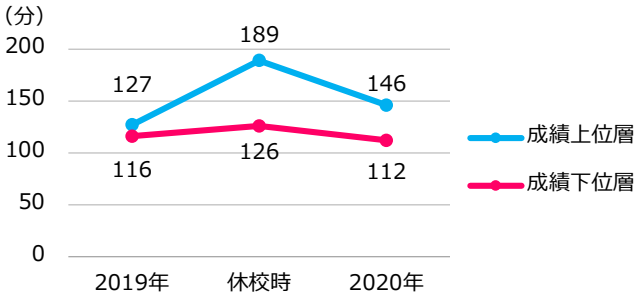


図３－１１ 中３生の学習時間（成績上位層・下位層別）



※ ここでの学習時間は１日あたりの「宿題の時間」「宿題以外の勉強をする時間」「学習塾の時間」を合計したもの。

※ 成績中位の学習時間は省略している。

学校段階が上がるほど、成績下位層の子どもほど、休校中の生活習慣や学習習慣は乱れている。

Q　休校のときの家庭でのすごし方について、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。　子ども2020

図３－１２ 休校中：規則正しく毎日をすごした（学校段階別）

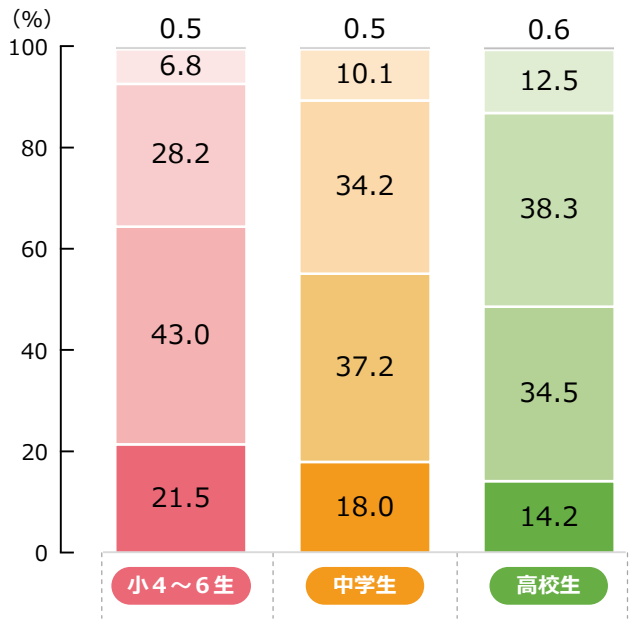


図３－１３ 休校中：しっかり勉強した（学校段階別）

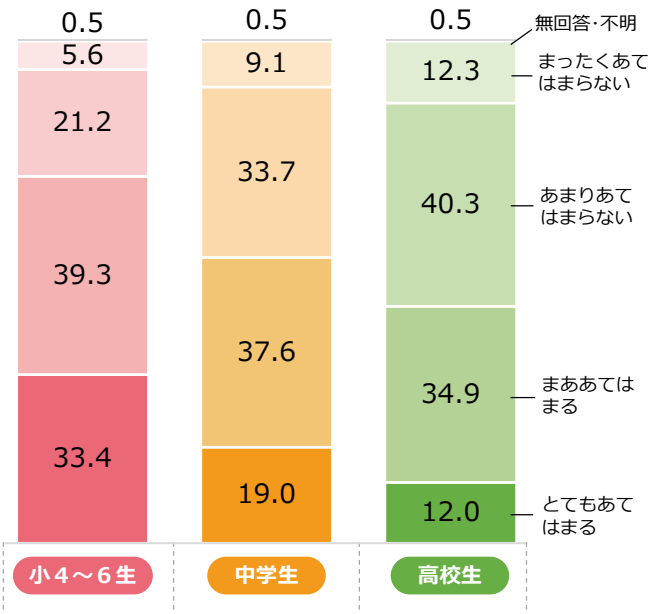


図３－１４ 休校中：規則正しく毎日をすごした
（学校段階別・成績層別）

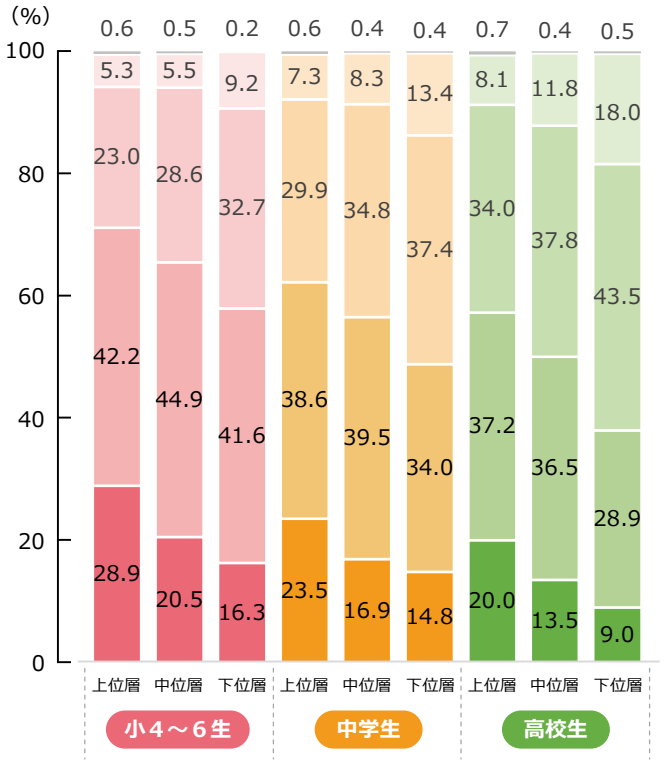
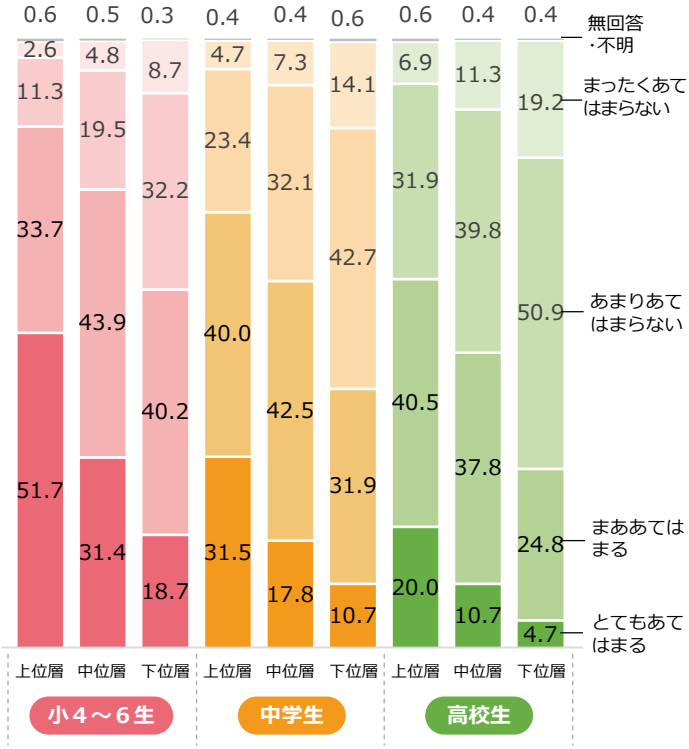


図３－１５ 休校中：しっかり勉強した
（学校段階別・成績層別）



2019年に比べ、「勉強しようという気持ちがわかない」の比率が全体的に高い。中1・2生では成績下位層、中3生では成績上位層が悪化している。

Q あなたは自身のことについて、次のことはどれくらいあてはまりますか。　子ども2019-2020

図３－１６ 勉強しようという気持ちがわかない（学年別）

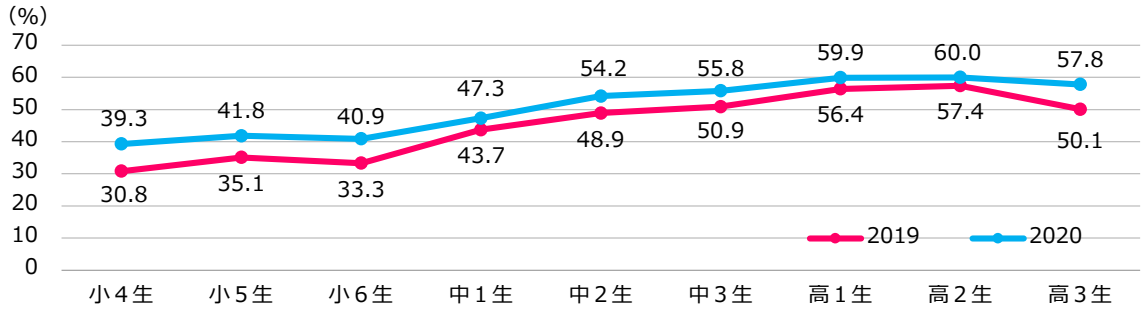


図３－１７
勉強しようという気持ちがわかない（成績下位層、学年別）

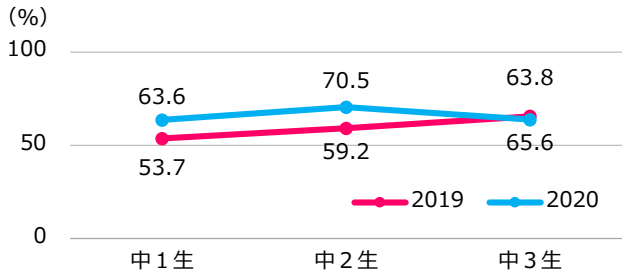
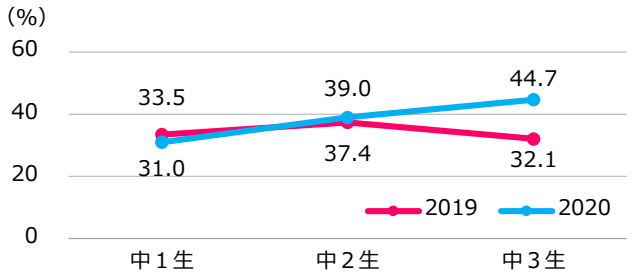


図３－１８
勉強しようという気持ちがわかない（成績上位層、学年別）



※「とてもあてはまる＋まああてはまる」の%

「自分の希望する高校（大学）に進みたいから」は小学生で低下している。特に、2019年から2020年にかけて、小6生の成績上位層で肯定的な回答が下がっている。

Q あなたが勉強する理由について、次のことはどれくらいあてはまりますか。　子ども2016-2020

図３－１９
自分の希望する高校（大学）に進みたいから（学校段階別）

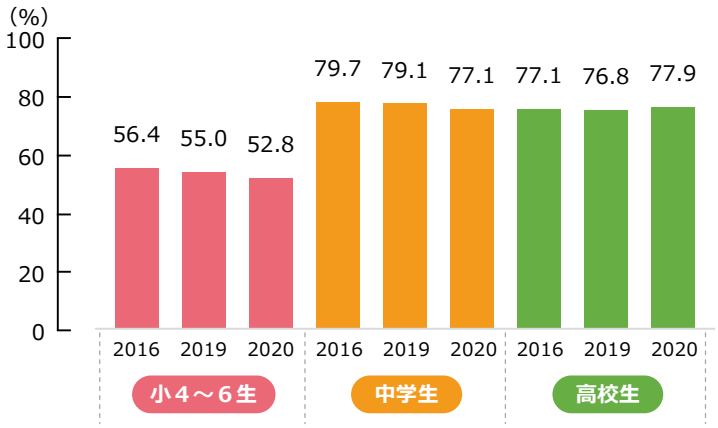
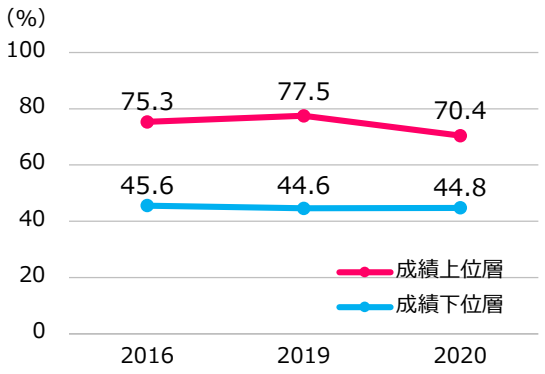


図３－２０
自分の希望する高校（大学）に進みたいから（小6生）

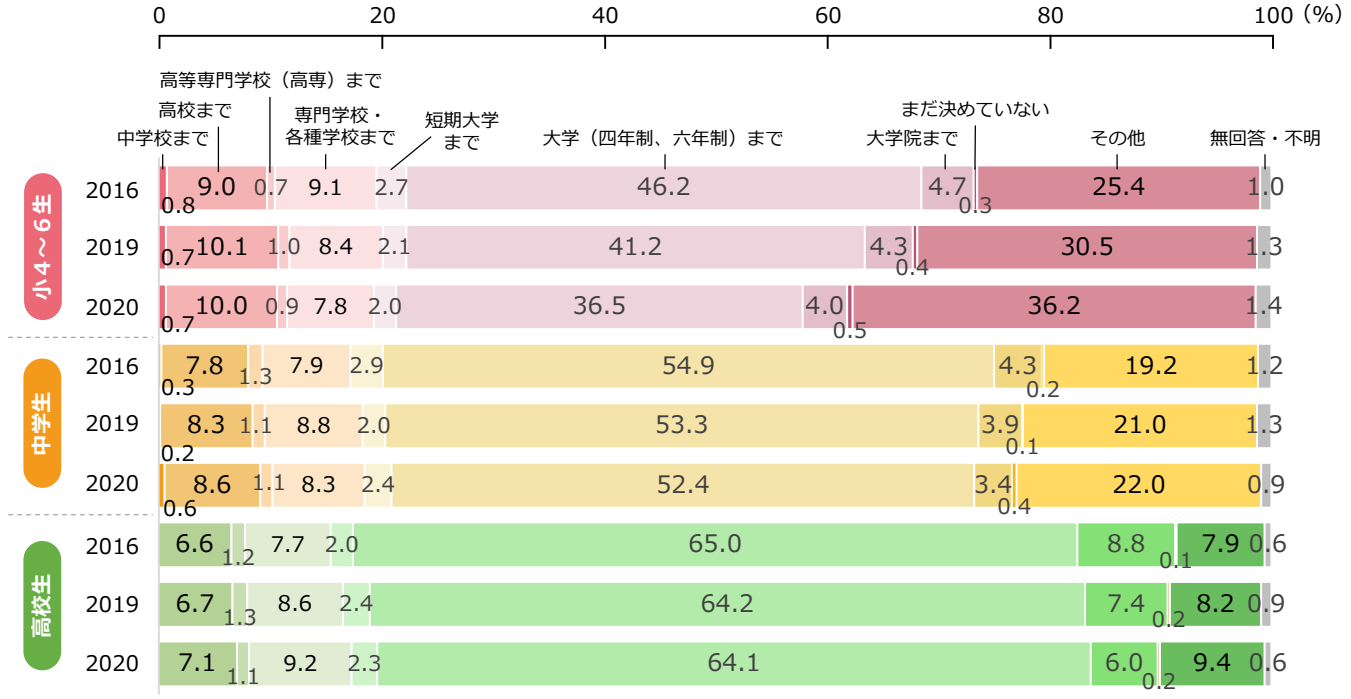


※「とてもあてはまる＋まああてはまる」の%

小学生の「将来・進路未決定」が増加している。小4～6生では、「大学まで」が2016年に比べると2020年は約10ポイント減少、「まだ決めていない」「その他」が増加している。また、将来なりたい職業（やりたい仕事）が「ある」小学生は大きく減少している。

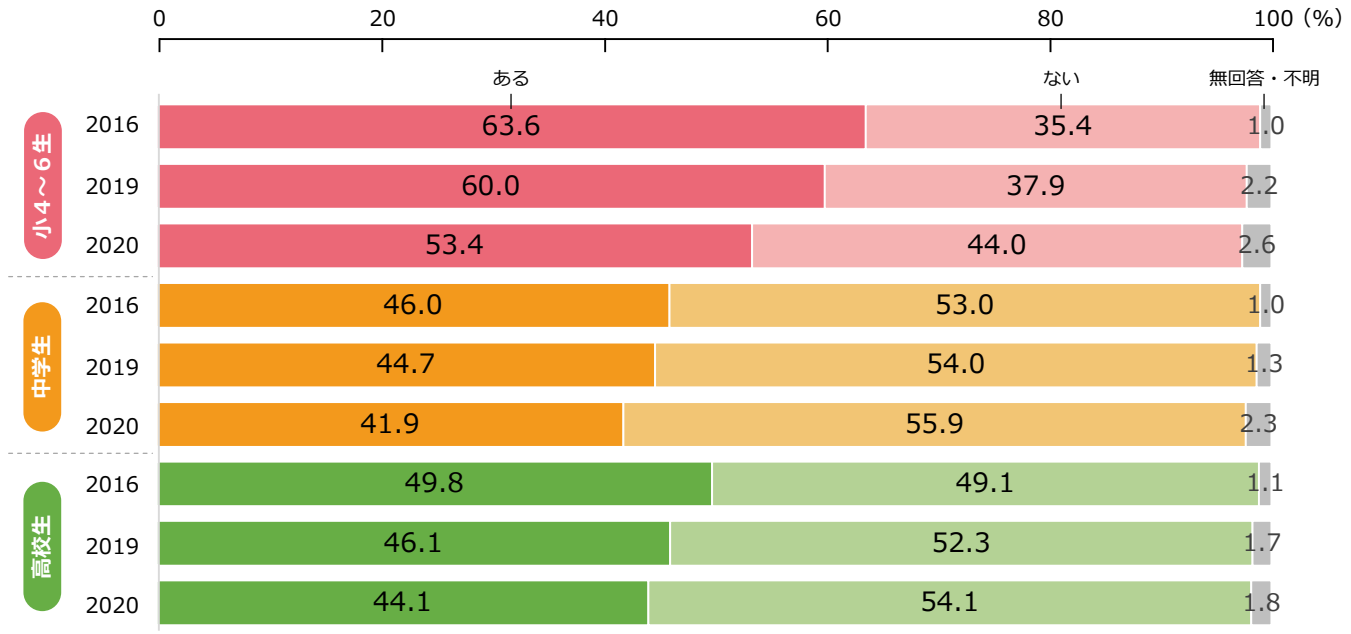
Q　あなたは、将来、どの学校まで進みたいと思いますか。　子ども2016-2020

図３－２１ 将来の進学希望（学校段階別）



Q　あなたには、将来なりたい職業（やりたい仕事）はありますか。　子ども2016-2020

図３－２２ 将来なりたい職業（学校段階別）

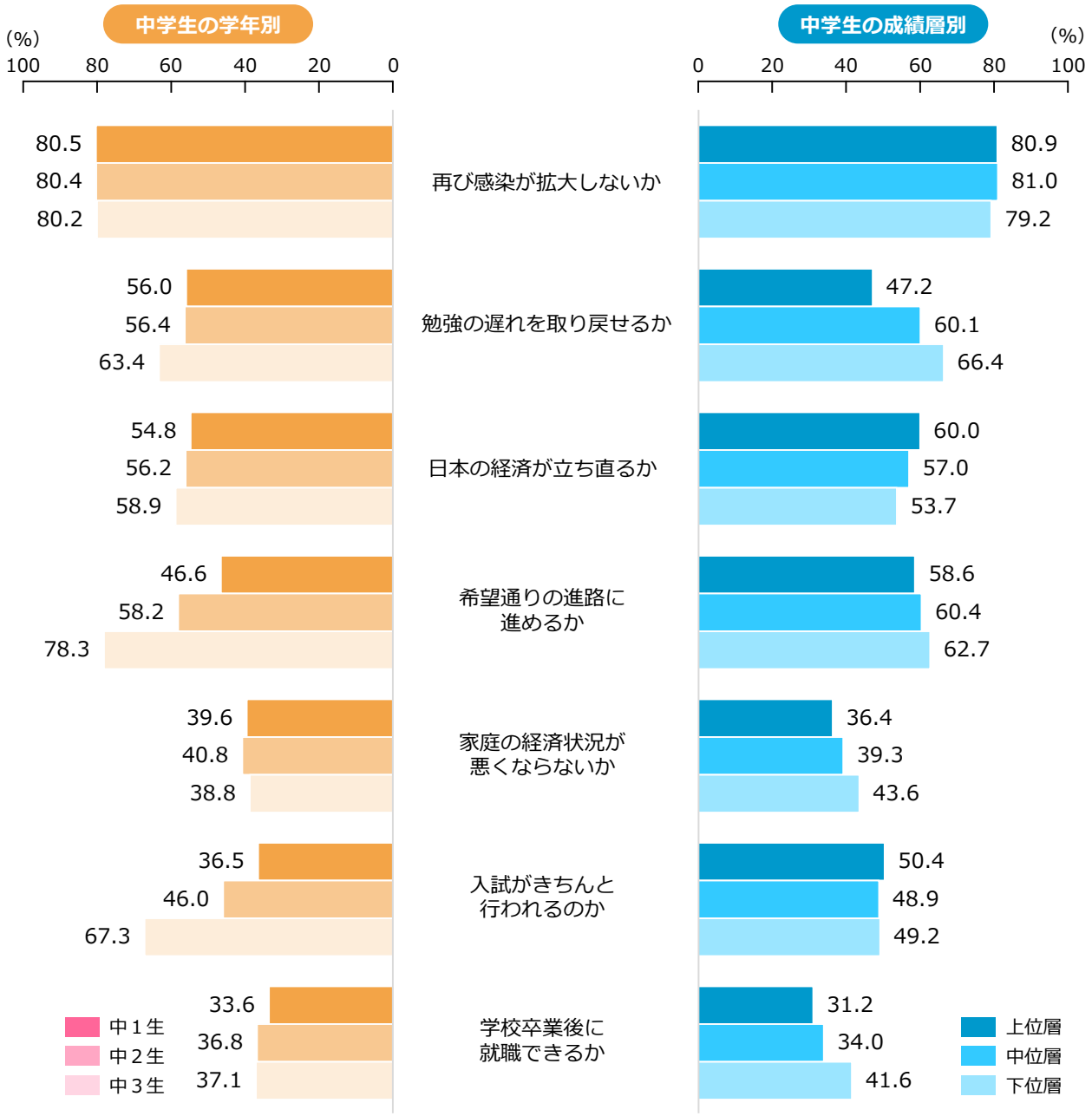


2）新型コロナ感染拡大の影響 ①不安・心配

学年や成績によらず、約8割が「再び感染が拡大しないか」不安だと回答している。中3生において、「希望通りの進路に進めるか」「入試がきちんと行われるのか」の比率が顕著に高い。「勉強の遅れを取り戻せるか」については、成績下位層ほど高い。

Q コロナの影響に関して、次のような不安や心配はありますか。 子ども2020

図３－２３ 新型コロナの影響で不安や心配なこと



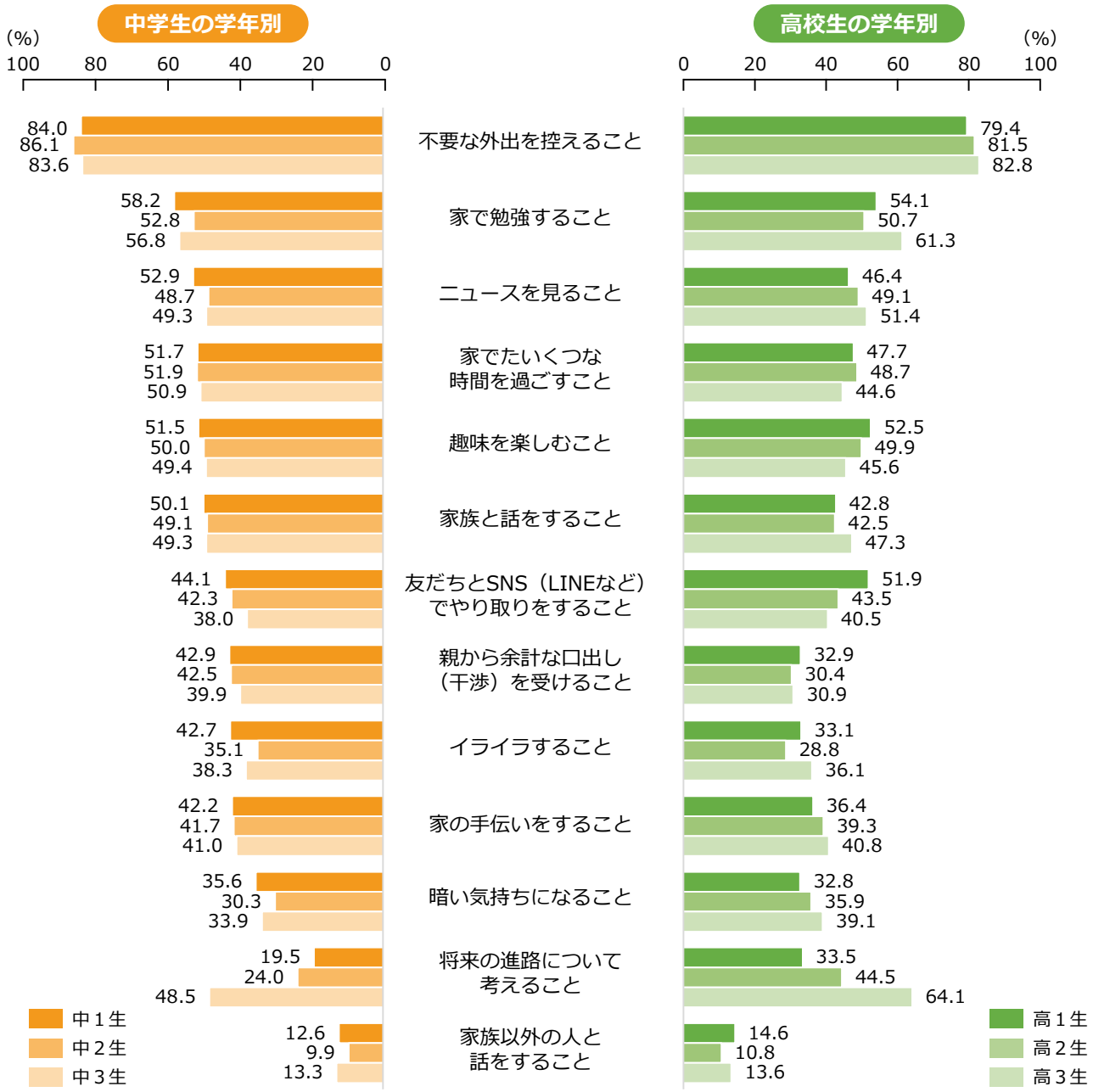
※ 中学生のみ分析。
※「かなりある＋まあある」の%。
※ 中１生の比率が高い項目から順に示している。

新型コロナ感染拡大の影響で増えたことを中高生本人にたずねると、「不要な外出を控えること」「家で勉強すること」などが上位を占める中、中3生・高3生では「将来の進路について考えること」が5～6割と高かった。

Q 新型コロナウィルス感染拡大によるあなたへの影響についてお聞きします。
コロナの問題が起きる前と後を比べて、次のようなことはどれくらい増えましたか。

子ども2020

図３－２４ 新型コロナの影響で増えたこと



※「とても増えた＋まあ増えた」の%。
※ 中１生の比率が高い項目から順に示している。

新型コロナの影響は自分にとって「マイナス」と評価した中高生は、どの学年でも5割強で、2割強の「プラス」を上回っている。

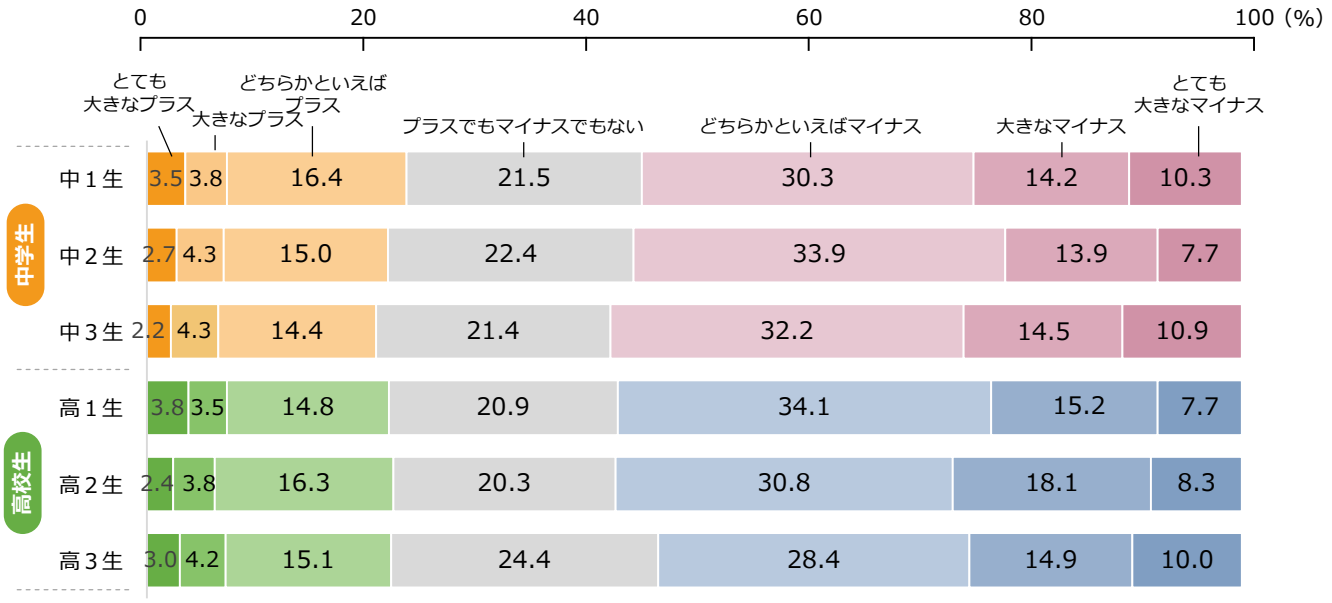
Q 新型コロナのあなたにとっての影響についてお聞きします。

子ども2020

① 総合的に考えて、今回の新型コロナ感染拡大に伴ういろいろな出来事は、あなたにとってどのような影響を与えましたか。

② そのように回答した理由を自由に書いてください。

図３－２５ 新型コロナがあなたに与えた影響（学年別）



新型コロナの影響は自分にとって**「プラス」**と回答した理由

ニュースに関心を持ち始めた。今までは家族の中で私だけニュースを見なかったが、新型コロナウイルスについて気になって。物事を色々な視点から見られるようになった。（高１生）

今までの学校での授業の良さも、オンライン授業の良さも、両方分かった。海外のニュースを見て、海外と日本の感染対策の違いを知り、考えさせられた。（中２生）

自分を見直す時間が出来たことで、受験生としての覚悟ができた。また、学校に行かなくなった事で改めて自分がいかに環境に恵まれていたか気がつく事ができた。（中３生）

新型コロナの影響は自分にとって**「マイナス」**と回答した理由

まだ仲良く出来ていない人がいるし、数学の勉強は学校が早く進み過ぎて理解出来ないことが多いと感じる。（中１生）

楽しみにしていた学校行事（文化祭）や部活の大会など、さまざまなことが中止になり、目標や希望を持つことにむなしさを感じた。（高２生）

大学受験に向けての勉強が思うように進まない。大学受験がどのようになるのか不安。（高３生）

東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所 共同研究
「子どもの生活と学び」 研究プロジェクト

子どもの生活と学びに関する親子調査2020
中高生追加Web調査

調査企画・分析メンバー

プロジェクト代表者

佐藤 香（東京大学社会科学研究所 教授）／ 谷山 和成（ベネッセ教育総合研究所 所長）

プロジェクトメンバー

耳塚 寛明（青山学院大学 特任教授）
秋田 喜代美（東京大学 教授）
松下 佳代（京都大学 教授）
石田 浩（東京大学社会科学研究所 特別教授）
藤原 翔（東京大学社会科学研究所 准教授）
大﨑 裕子（東京大学社会科学研究所 特任助教）
木村 治生（ベネッセ教育総合研究所主席研究員）
高岡 純子（ベネッセ教育総合研究所
学び・生活研究室室長、主席研究員）
岡部 悟志（ベネッセ教育総合研究所主任研究員）
野﨑 友花（ベネッセ教育総合研究所研究員）
渡邉 未央（ベネッセ教育総合研究所研究スタッフ）

※調査票検討・調査基盤の持続性ワーキンググループメンバー
須藤康介（明星大学 准教授） 小野田亮介（山梨大学大学院 准教授）

※所属・肩書きは、2021年3月時のものです。

研究プロジェクトのWEBサイトのご案内

研究プロジェクトや本調査に関しては、以下のWEBサイトに掲載しています。

ベネッセ教育総合研究所 ：http://berd.benesse.jp/special/childedu/
東京大学社会科学研究所：http://web.iss.u-tokyo.ac.jp/clal/

「子どもの生活と学びに関する親子調査2020」ダイジェスト版

発行日：2021年3月5日 発行人：谷山 和成 編集人：高岡 純子
発行所：㈱ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所

0HNB03

©Benesse Educational Research and Development Institute

無断転載を禁じます。